

令和元年度
学校訪問活動報告書

令和2年4月10日

全国内航タンカー海運組合
船員対策委員会

— 目 次 —

I. 令和元年度の学校訪問活動を終えて	…	1
II. 令和元年度・学校訪問一覧表	…	2
III. 学校訪問における主な意見交換内容（抜粋）	…	3
V. 海技教育機構との懇談会議事概要	…	4～9
VI. 水産高校生の求職希望に対する情報提供	…	10
VII. 令和元年度・船員対策委員会委員名簿	…	11
(別紙) 学校別訪問結果報告書	…	12～104

I. 令和元年度の学校訪問活動を終えて

船員対策委員会では、当組合の中期運営指針及び令和元年度事業計画において、船員の高齢化・不足化等の状況に鑑み、若年船員の確保・育成を重要施策に位置付けていることから、本年度も次の目的で学校訪問活動を実施いたしました。

- (1) 船員の高齢化、若年船員の不足状況から、学校との良好な関係づくりの継続
- (2) 学校側に、業界の現状、求人傾向の説明、生徒の求職希望等について情報交換
- (3) 毎年変わる生徒に対し、内航タンカーの役割や船員の仕事等の説明によるPR
- (4) 学校とパイプの無い会社の橋渡しの役割を果たし、採用会社数の底辺を拡大
- (5) 入社後のミスマッチ解消に向け、最近の学生の気質や就職に対する考え方の把握

訪問に当たっては、例年通り、海技教育機構本部との意見交換を行い、各支部の協力を得て、組合員に参加を呼びかけ、訪問校38校、参加会社延べ321社、参加人数延べ414名の訪問活動を実施することができました。これは、参加会社数、参加人数とも過去最多であり、組合員各社の本訪問活動による新卒採用への意欲が表れた結果と思います。当初41校の訪問に向けスケジュール調整しておりましたが、2月後半より新型コロナウイルスの影響が顕著となり3校(館山2校、と境港1校)の訪問は中止となってしまい、この問題はどこまで波及するのか大きな懸念材料となっております。

各社の各学校区分別の新卒採用は次の通りです。(人数は内タンの船員実態調査報告書より)

- (1) 海上技術学校及び同短大は、内タン各社の採用実績が他船種に比べて多く、各社の積極的な採用と訪問活動の継続が着実に業界の底辺拡大に結びついて来た感があります。(令和元年度新卒採用127名)
- (2) 水産高校については、組合員の採用実績がある学校、毎年出前授業の依頼を受けるなど好感触を得ている学校、また、毎年新規校の開拓に努め訪問を実施して来た結果、3年連続で新卒採用実績が学校区分別でトップとなりました。(令和元年度新卒採用148名)
- (3) 商船高専は、訪問活動や各社の求人増加を反映して、徐々に内航タンカーを就職対象と考えている生徒が増加して来ています。(前年比:商船高専21名→30名)
- (4) この他、関西支部で試みている、不足する機関部員の新規発掘に向けた工業高校、商船系大学、及び一般の学校も含めて、あらゆる分野から若年者を就職実績につなげていくことが課題かと思えます。(令和元年度新卒採用計38名)

組合員の令和2年3月の新卒採用活動については、例年以上に積極的な求人活動が展開されましたが、少子化の現状、陸上での人手不足から、他業種の求人数も増加する等、採用活動に苦戦した組合員もいるやに聞き及んでおります。

このため、令和2年度は、これまでの訪問活動によって作り上げてきた業界と学校の相互理解をさらに深め、訪問結果を当組合の施策に反映し、組合員各社の船員募集活動の一助となるよう継続した活動を展開して行きたいと考えております。今後とも、皆様の活動に対するご理解とご支援をお願いいたします。

訪問活動にあたり、当委員会委員はじめ、各支部より多くの方々のご協力をいただきました。ここに改めてお礼申し上げます。

令和2年4月
船員対策委員会
委員長 内藤 吉起

II. 学校訪問一覧表 (令和元年度)

区分	No	地区	訪問校	訪問日	担当支部	訪問実績		
						社数	人数	
海技教育機構	1	北海道	国立小樽海上技術学校	2/4	関東	11	15	
	2	岩手	国立宮古海上技術短期大学校	6/26	船対協	12	13	
		千葉	国立館山海上技術学校	中止	関東			
	3	静岡	国立清水海上技術短期大学校	11/29	関東	14	16	
	4	佐賀	国立唐津海上技術学校	11/22	西部	10	12	
	5	長崎	国立口之津海上技術学校	1/22	西部	9	11	
	6	愛媛	国立波方海上技術短期大学校	11/13	四国	22	25	
	兵庫	国立海技大学校(芦屋)	11/14	関西	12	15		
水産高校	8	北海道	北海道小樽水産高等学校	2/5	関東	10	13	
	9	北海道	北海道函館水産高等学校	12/10	関東	11	13	
	10	青森	青森県立八戸水産高等学校	12/11	関東	10	11	
	11	岩手	岩手県立宮古水産高等学校	6/25	船対協	12	13	
	12	宮城	宮城県立水産高等学校	7/9	船対協	5	5	
	13	福島	福島県立いわき海星高等学校	2/19	関東	6	7	
	14	茨城	茨城県立海洋高等学校	2/20	関東	7	8	
		千葉	館山総合高等学校	中止	関東			
	15	神奈川	神奈川県立海洋科学高等学校	12/4	関東	10	11	
	16	静岡	静岡県立焼津水産高等学校	11/18	関東	10	12	
	17	愛知	愛知県立三谷水産高等学校	12/12	東海	6	9	
	18	三重	三重県立水産高等学校	1/15	船対協	3	6	
	19	富山	富山県立滑川高等学校	6/26	関西	5	8	
	20	福井	福井県立若狭高等学校	7/18	関西	9	11	
	21	京都	京都府立京都海洋高等学校	7/17	関西	9	11	
	22	兵庫	兵庫県立香住高等学校	5/27	関西	4	5	
		鳥取	境港総合技術学校	中止	関西			
	23	島根	島根県立浜田水産高等学校	11/11	関西	6	9	
	24	島根	島根県立隠岐水産高等学校	5/8	関西	4	5	
	25	山口	山口県立大津緑洋高等学校	11/21	西部	2	3	
	26	香川	香川県立多度津高等学校	11/7	関西	8	9	
	27	愛媛	愛媛県立宇和島水産高等学校	6/29	船対協	12	27	
	28	高知	高知県立海洋高等学校	12/18	関西	10	13	
	29	大分	大分県立海洋科学高等学校	2/6	西部	8	9	
	30	熊本	熊本県立天草拓心高等学校	1/23	西部	5	7	
	31	宮崎	宮崎県立海洋高等学校	6/11、2/18	西部	4	6	
	32	鹿児島	鹿児島県立水産高等学校	12/5	西部	10	13	
	工業	33	奈良	奈良県立王寺工業高等学校	6/5	関西	2	3
	商船高専	34	富山	国立富山高等専門学校	6/25	関西	8	11
		35	三重	国立鳥羽商船高等専門学校	6/12	関西	9	14
		36	広島	国立広島商船高等専門学校	6/11	中国	9	14
		37	山口	国立大島商船高等専門学校	11/5	関東	6	7
38		愛媛	国立弓削商船高等専門学校	12/3	四国	11	14	
38校						321	414	

※担当支部が船対協は合同開催

海上技術学校・同短大	7	90	107
水産高等学校	25	186	244
工業高等学校	1	2	3
商船高等専門学校	5	43	60
商船系大学	0	0	0
計	38	321	414
前年度対比	+2	+95	+121

Ⅲ. 学校訪問における主な意見交換内容（抜粋）

【 学校側の所見、要望等 】

- (1) 学校訪問等による継続的な業界説明を望む。
- (2) 今年の求人、就職内定状況は好調、今後も継続的な求人を要望。
- (3) 女子船員の求人拡大を望む。
- (4) 離職理由に、乗船期間、休暇が事前の説明と違うとの声もあり、採用間もない頃は、乗船期間や事前説明で配慮願いたい。
- (5) 最近の学生は、気質や好む環境が、昔と変化して来ていることを理解して採用して欲しい。
- (6) 乗船実習の下船時に応じて面接・試験日の選定等、会社側の配慮を望む。
- (7) インターンシップやタンカー船見学の機会が欲しい。

【 内タン訪問者の所見等 】

- (1) 学校との継続的な関係の構築が必要。
- (2) 内航タンカーの業界自体が認知されていない学校もあり、地道なPRが必要。
- (3) 生徒への説明は、学校によって簡易な内容と専門的な内容を使い分ける必要あり。
- (4) 学校の先生自身にも、内航タンカーを知ってもらうための説明が必要。
- (5) 採用活動と同時に離職防止や業界内つなぎ止め方策の検討が必要。
- (6) 最近の学生はWi-Fi環境を重視する等、若者の気質や船内での過ごし方の変化を理解することが必要。

【 生徒からの主な質問 】

- (1) 内航タンカー船員の仕事(荷役、航海、危険性、新人船員の研修等)
- (2) 内航タンカー船員の労働条件(給料、休暇、船内生活、賄い、陸上勤務の有無等)
- (3) 企業が求める人材(性格、年齢制限、海技免状種類、他の資格、女子船員の採用等)
- (4) 業界の将来(原発・火力等のエネルギー事情、船腹の需給、省エネへの取組み等)

IV. 海技教育機構との懇談会議事概要

日時：令和元年7月23日(木)13:00~14:55

場所：海技教育機構会議室(横浜第二合同庁舎)

出席者：

(機構10名)

野崎理事長、村松理事、船津審議役、田村航海訓練部長、渡邊航海訓練部次長、阿部企画課長、鶴田教務課長、遠藤募集就職課長、平岡募集就職係員

(内タン13名)

内藤委員長(邦洋海運(株))、高橋副委員長(昭和日タンマリタイム(株))、前川(旭タンカー(株))、桐山(上野トランステック(株))、木下(鶴見サンマリン(株))、北(日新船舶(株))、庭瀬(明神海運(株))、松波(榊辰巳商会)、阿部(和)代理阿部(信)(榊霧島海運商会)、三谷代理力石(中国支部事務局長)、淵、山口、目次(事務局)

懇談会要旨：

- ・ 内藤委員長より、昨年も機構全8校の学生との懇談の機会を提供、並びに毎年100トンカー船員の課題は陸上同様に労働力不足への対応で、国交省の船員部会で船員の働き方改革の議論が進められているが、業界が抱えている船員問題について、機構の教育現場から見た問題点等、意見交換により相互理解を図っていきたく旨、また、本年度も学校訪問により継続した活動を実施するので、各社の活発な船員募集活動に協力願いたき旨挨拶がなされた。
- ・ 野崎理事長より、学生や教官の体験乗船と社船実習、進路の参考になる学校訪問、内航タンカー各社の多数の採用実績(本年4月の内定者は109名、就職希望者の約30%、本年6月末現在の求人も74社364名と好調)、多岐に亘ってのご協力に謝意を述べ、機構では一昨年の重大事故に鑑み、安全最優先での運営機構の再構築を図り、また、小樽の海技短大(航海専科)への移行等、組織の改革が控える中、今後もより良い船員の輩出に向けた努力を続けていくので、協力願いたき旨挨拶がなされた。

1. 内航タンカーの現況報告

事務局より、次の通り報告。

(1) 組合の現況(平成31年3月末現在)

- ・ 組合員数526社、登録船896隻、885千G/T、1,622千m³

- ・全国に7つの支部、職員数計14名
- ・組織は、総会、理事会、運営会議の他、常設の委員会6、荷主との連絡会2
その他、国交省との協議会対応として安定・効率輸送対策会議を設置

(2) 輸送量（平成26～30年度）

- ・白油 … 5年間の増減幅は少ないが、省エネ進展等で漸減見込み
- ・黒油 … 東日本震災後の一時期石油火力増強も以後、5年間で30%減少
- ・ケミカル … ここ5年間は原料安、輸出増等で堅調
- ・特タン … 5年間はほぼ横ばい、但し品目別では各年、増減幅は大きい

(3) 船腹量（平成26～30年度）

- ・白油船 … 5年間で隻数は16隻減少、船腹量は横ばい（100%）
- ・黒油船 … 5年間で隻数は22隻減少、船腹量は7.4万m³減少（85%）
- ・ケミカル船 … 5年間で隻数は5隻増加、船腹量は1.2万m³増加（105%）
- ・特タン船 … 5年間で隻数は20隻減少、船腹量は0.9万m³減少（95%）

(4) 船齢区分（平成30年10月現在）

- ・バブル期の大量建造船が20～25才となったが、特に小型船の代替が鈍化
- ・平均船齢は15.1才、船齢15年以上が50%と高齢化が進展

(5) 内航タンカー船員実態

- ・平成30年10月現在、調査回収率79.6%の実態調査による、内航タンカー船員の平均年齢46.8才、50才以上50%と高齢化
- ・各社新卒採用の増加から30才未満割合は20%と徐々に増加
- ・推計船員数合計は約8,950名
- ・内タン各社の新卒採用数は5年間で毎年増加（H26・239名→H30・323名）
- ・海技教育機構卒業生の採用数は毎年100名以上も、他の機関を含めた全体の採用比率では漸減傾向（H26・126名＝53%→H30・121名＝37%）

(6) 平成30年度学校訪問実績

- ・20年度より支部毎にチームを組み、海技教育機構、水産高校等を訪問
- ・30年度は、海技教育機構8校、水産高校24校、工業高校1校、商船高専3校、計36校を訪問
- ・31年度も前年度以上の校数訪問を計画、現在順次実施中

2. 機構の現況報告

事務局より、次の通り報告。

(1) 入学・卒業状況

- ・入学定員 … 海技学校4校・定員140名、短大3校・定員250名、計390名

- ・ 31年度応募 … 海技学校 1.9倍（前年 1.6倍）、短大 2.3倍（前年 2.4倍）
- ・ 32年3月卒業予定者 … 海技学校 135、短大 245、海技大学 30、計 411名

(2) 海技試験合格率（30年度）

- ・ 4級航・機両用…海技学校 93%、短大 95%、3級専修…海技大学 100%
- ・ 4級航・機単科どちらかの合格とすれば 100%

(3) 求人・就職状況（海技学校、短大、海技大学）

- ・ 毎年 360名前後の海上就職希望に対し海上求人は、26年度 1,001名、30年度 1,353名と5年間で約 1.4倍、31年度も現時点で前年並み
- ・ 内、タンカー会社の求人は、26年度 262名、30年度 426名と5年で 1.6倍
- ・ タンカー会社への就職は、26年度 120名、30年度 109名とやや減少

(4) 求人受付

- ・ 海技学校の 31年度求人受付は 6月 1日、短大、海大は 3月 1日
- ・ 乗船実習期間が学校毎で若干の違いがあり、面接・試験等の配慮希望

(5) 航海訓練関係報告

- ・ 練習船 5隻で運用
- ・ 内航海運アドバイザーを年 2回受入（1回は生徒への講義、1回は乗船して教員等への指導）

3. 質疑応答、意見交換

(内タン) 令和3年からの小樽の航海専科校（短大）の定員は何名か？校舎の耐震問題は怎么样了か？

(機 構) 決定はしていないが、40名程度（現30名）になることを想定。小樽商業高校（廃校予定）の跡地に移転する予定。従来の様な寮完備とはならず通学が主体。

(内タン) 実習生のマスト転落事故の第三者報告書を受け、現状の訓練方法は？

(機 構) 帆船訓練では、高所恐怖症者への対応として、チェックシートで事前把握等を考えており、今後、訓練内容に反映する予定。

(内タン) 就職者からの情報だが、学校で組合船（組織船）への就職を指導していると聞いたが本当か？

(機 構) 募集就職課では、そのような事例は不適切と考えており、各学校に対してそのような指導を行わないよう改めて周知したい。

(内タン) 海技免状4級両用の何れかを取れていない者は、受験しての不合格か？

(機 構) 全員が両方を受験しての結果。就職内定した職務の免状は落とせないこと

から、片方の勉強は疎かになったことが予想される

(内タン) 今後、両用から専科へ移行する中で、如何に定員を増やせるかの問題に関して、事業者では社船実習を増やし練習船の空きを確保する等の協力が考えられるが、機構としての考えや業界への要望は？

(機構) 専科教育への移行は、小樽校がトライする最初のケースとなり、今後、波方、宮古、清水も移行し、現本科校も短大へ移行予定である。ただ、難しいのは、航海専門の単科校はあり得ても、機関の専科校は入学者確保の面から難しいと考えている。学校の定員は、専科、短大への移行で増員を図る計画であり、練習船のキャパ確保は実習期間短縮で図っていききたい。社船実習との兼ね合いも含めた具体的なカリキュラムは、今後、国交省と協議する予定である。

(内タン) 求人数で航海、機関の割合はどのくらいか？また、就職の職種割合は？

(機構) 正確なデータは後ほど確認し連絡するが、航海6～7割、機関4～3割。

(内タン) 両用免状を持った学生は、会社への応募段階で、航海か機関のどちらかを志望していると思うが、会社の都合で違う職種へ打診することは可能なのか？

(機構) 通常は、本人がどちらの職種希望を決めて、その職を全うすることが多いが、極まれに会社都合で航・機の職を変えたという話も聞いている。

(内タン) 当社では、航・機両用教育に関しては、専科教育として、教育内容の深度化を図る方が船社にはありがたい。

(内タン) 当社の事例として、就職後の就労経験を積む中で、本人が向かないと判断し、反対職（航→機、機→航）に移った新人船員もいる。両用教育はこのようなケースの場合、会社に留まれるメリットがある。

(内タン) 学生は、最終的に航海か機関のどちらかを決めると思うが、学生期間中に志望は変わるものなのか？専科教育では入学時の選択を変えられない心配があるが？

(機構) 現状は両用教育なので、入学時の志望は航海8：機関2の割合だが、学生期間中に考えが変わる者もいる。航海、機関と決めて動かさない者、就職したい会社の求人票の募集職種によって自身の職種を選ぶ学生も結構いる。それらを含めて最終的に航海65%：機関35%程度の就職割合となる。

(内タン) 今後、専科教育に移行する中で、機関35%の就職実績を踏まえ、極端に航海に偏った割合とならない様、船社としては配慮を希望している。

(機構) 今後各校も移行していくが、機関の必要性は充分認識しており、小樽の航海専科は既に決まっているが、航海に偏らない方法は考えていきたい。

(内タン) ECDIS積載船が増加しており、水産高校でもECDISの限定解除の教育を行う

方向があると聞いているが、機構の対応は？

- (機 構) 現状の教育カリキュラムでは難しいが、専科教育への移行と平行しシミュレーターを導入していく等の計画もあり、将来的には対応していきたい。
- (内タン) ECDISやBRMは、教育課程で習得願えば、会社に入ってから負担や本人の仕上がりも早くなるので、是非、カリキュラムに加えて欲しい。
- (機 構) 現在の専修科授業は、1日8時間で朝から夕方まで詰まっている。今後、専科教育に移行する中で、余裕が出来た時間にECDIS等を導入していきたいと考えている。
- (内タン) STCWの基本訓練は学校のカリキュラムで実施されているのか？
- (機 構) 4級海技士の受験要件に入っており、消火と生存の基本訓練は学校で実施している。
- (内タン) その訓練で英文の修了証書は発給していないか？
- (機 構) 発給していない。
- (内タン) 機構の訓練では、STCWもBRMもメジャーで要求されている英文証書は、訓練日数の関係で発行出来ないと認識している。
- (内タン) STCWの訓練について、JMETSの外、JEIS等の訓練施設があるが、JMETSとして訓練施設を拡充していく予定はあるか？
- (機 構) JMETSでは、芦屋の海技大学校、横須賀のJAMSTEC施設の借り上げ、三崎の施設の借り上げを予定しているが、最大でも年間600人規模と考えている。その他、北九州のトレーニングセンターは業務提携で実施する。
- (内タン) 海事セミナーでは、フェリーやRORO船社の人気が高く、参加したタンカー船社が平等に面接の機会が得られない状況にある。選ぶのは学生次第という一義は分かるが、何かアドバイスはないか？
- (機 構) 海事センターが実施した学生に対するアンケート結果では、就職に際して決め手となる優先順位は、労働条件、賃金だが、マイナスとなる理由では、人間関係を不安視している回答が多い。今後、この内容を突き詰めて調査していき、結果を企業にも伝えていきたい。
- (内タン) 当社では新人を乗せる際、先輩がいる、同世代がいる船等を配慮することにより、乗船への不安を解消し、結果も良い循環が生まれている。
- (内タン) 当社で感じていることは、JMETS本科の生徒は先輩・後輩のつながりがあるようだが、短大は学内で一緒にいる期間が短い関係で上下つながりが薄いように感じる。
- (内タン) 当社では現場の船員からの声で、社会人としての常識が無い若い子も入ってくるが、その面は陸上で教育して欲しいとの要望もあり、課題として考えている。一方、新人船員に対して厳しい評価や態度が、本人にとってパワ

ハラと認識され、それがSNSを通じて尾ひれを付け拡散することに苦慮している。

(内タン) 当社では入社後1~1.5年で定員に入れるが、その間は休暇を早めに与える等するため定着率は良いが、それ以降に離職する率が高い。原因として、デッキとエンジンの昇進スピードの違いや、同じデッキでも昇進に差が出始めると、他船や同期の情報が直ぐに分かることで逆に嫌気が差し、離職してしまう一因となるようである。

(機 構) 内タンの資料で、JMETS卒業生の就職数は頭打ちだが、水産高校はここ2~3年大きく伸びているが、これは学校訪問活動の成果が表れたのか？

(内タン) 船員の高齢化により業界全体が若い船員を育てなくてはならないという方向に向かい採用数は伸びている。ただ、JMETS卒業生は内タン船社に毎年110名前後（全体の1/3近く）が就職しており、JMETS現行定員の中で他船種の求人状況との兼ね合いからもこれ以上増やすのは難しいと感じている。ただ各社の採用意欲はそれを上回っているため、内タンの水産高校訪問と各社のニーズがマッチして採用数増加へと結びついている。

予定時刻となったため、質疑応答を終了し、今後も双方が協力していくことを確認して本日の懇談会を終了した。

以 上

V. 水産高校生の求職希望に対する情報提供

本年度は、全国各地の水産高校より、運輸局、地区の船員対策協議会、内航総連合会宛、内航船への求職希望生徒のリストが地区や学校毎にまとめられ、下表一覧の通り業界に一覧の通り業界に情報提供があった。このため、組合員の就職活動の一助に供するため、メール網等を活用して即時に組合員へ通知した。

(令和2年3月卒業)

水産系高校卒業予定者の内航貨物船員(タンカー含む)への就職希望者一覧

地域	都道府県	NO	学校	合計									平成30年度実績			
				本科		専攻科		甲板・機関別			本科・専攻科別			(平成31年3月卒業生)		
				甲板	機関	甲板	機関	甲板	機関	計	本科	専攻科	計	本科	専攻科	合計
北海道	北海道	1	小樽水産高校	3		5		8	0	8	3	5	8	3	0	3
	北海道	2	函館水産高校	2			4	2	4	6	2	4	6	6	2	8
	北海道	3	厚岸翔洋高校					0	0	0	0	0	0	1	0	1
東北	青森県	4	八戸水産高校			3	2	3	2	5	0	5	5	9	0	9
	岩手県	5	宮古水産高校	1				1	0	1	1	0	1	0	6	6
	宮城県	6	気仙沼向洋高校	8	10		1	8	11	19	18	1	19	2	0	2
	宮城県	7	水産高校					0	0	0	0	0	0	7	2	9
	秋田県	8	男鹿海洋高校					0	0	0	0	0	0	0	0	0
	山形県	9	加茂水産高校	1				1	0	1	1	0	1	1	0	1
	福島県	10	いわき海星高校		1		2	0	3	3	1	2	3	2	0	2
関東	茨城県	11	海洋高校					0	0	0	0	0	0	4	0	4
	千葉県	12	館山総合高校					0	0	0	0	0	0	4	0	4
	東京都	13	大島海洋国際高校					0	0	0	0	0	0	0	0	0
	神奈川県	14	海洋科学高校					0	0	0	0	0	0	1	16	17
北信越	新潟県	15	海洋高校					0	0	0	0	0	0	0	0	0
中部	静岡県	16	焼津水産高校			2	3	2	3	5	0	5	5	3	0	3
	愛知県	17	三谷水産高校			1	2	1	2	3	0	3	3	0	5	5
	三重県	18	水産高校	1	1	2	2	3	3	6	2	4	6	1	4	5
近畿	京都府	19	海洋高校					0	0	0	0	0	0	0	0	0
中国	鳥取県	20	境港総合技術高校					0	0	0	0	0	0	5	0	5
	島根県	21	隠岐水産高校					0	0	0	0	0	0	5	5	10
	島根県	22	浜田水産高校					0	0	0	0	0	0	0	2	2
	山口県	23	大津緑洋高校					0	0	0	0	0	0	3	7	10
四国	徳島県	24	徳島科学技術高校					0	0	0	0	0	0	1	0	1
	香川県	25	多度津高校	3	1	1		4	1	5	4	1	5	7	10	17
	愛媛県	26	宇和島水産高校	2	2	1	3	3	5	8	4	4	8	9	10	19
	高知県	27	高知海洋高校	2		3	3	5	3	8	2	6	8	5	8	13
九州	福岡県	28	水産高校					0	0	0	0	0	0	7	4	11
	長崎県	29	長崎鶴洋高校					0	0	0	0	0	0	0	0	0
	熊本県	30	天草拓心高校					0	0	0	0	0	0	1	0	1
	大分県	31	津久見高校海洋科学校					0	0	0	0	0	0	0	0	0
	宮崎県	32	宮崎海洋高校					0	0	0	0	0	0	0	0	0
	鹿児島県	33	鹿児島水産高校					0	0	0	0	0	0	10	7	17
沖縄	沖縄県	34	沖縄水産高校	4	3	5	6	9	9	18	7	11	18	0	0	0
	沖縄県	35	宮古総合実業高校	4	3			4	3	7	7	0	7	0	0	0
				31	21	23	28	54	49	103	52	51	103	97	88	185

令和元年度
船員対策委員会
委員名簿

13名（令和2年3月末現在）

委員長	内藤 吉起	邦洋海運(株) 取締役会長
副委員長	高橋 洋一	昭和日タンマリタイム(株) 代表取締役社長
委員	前川 秀樹	旭タンカー(株) 執行役員
〃	桐山 和宏	上野トランステック(株) 執行役員
〃	栗田 克己	田淵海運(株) 取締役常務執行役員
〃	木下 一也	鶴見サンマリン(株) 船舶安全本部船舶グループ部長
〃	嶋村 賢治	浪速タンカー(株) 取締役船員部長
〃	松浦 一夫	幸福船舶(株) 代表取締役
〃	北 雅之	日新船舶(株) 取締役海務部長
〃	三谷 秀明	三谷海運(株)代表取締役
〃	阿部 和久	(株)霧島海運商会 代表取締役常務
〃	庭瀬 秀男	明神海運(株) 代表取締役
〃	松波 道男	(株)辰巳商会 海運部次長

以上

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	国立小樽海上技術学校
訪問年月日	令和2年2月4日(火)
訪問者 (順不同)	昭和日タンマリタイム(株)高橋社長、幸洋汽船(株)藤澤社長、(株)デュカム栗林船員部長、 鶴見サンマリン(株)木下船舶グループ部長、浅野海務監督、上野トランステック(株)桐山海務部長、 英雄海運(株)新井海務課長、国華産業(株)本多スーパーバイザー、安斉管理部係長、 三興運輸(株)土井社長、土井海務安全課長、旭タンカー(株)宗和船員TL、 明和海運(株)山田総務部部長、(株)霧島海運商会阿部取締役、事務局山口 計15名
実施事項(○印)	(1) 生徒全体説明 (2) 学校側懇談 (3) 個別就職面談 (4) 懇親会(参加者)

懇談・意見交換概要

1. 教職員との懇談会 13:10~13:4 (第3教室)

学校側出席者 : 松本校長、鈴木副校長、庄司指導課長、野崎教務課長 他 計10名

【特記事項】

- ・ 内タン船員対策委員会副委員長の高橋氏が参加者を代表して挨拶。
学校側より新任の松本校長から挨拶。内タンの学校訪問が同校の年間行事に位置付けられていること、同校の短期大学への移行に伴う今後の予定の説明とともに過渡期にあっても引き続き内タンから学校訪問を継続願うとのことであった。
直近の内定状況の説明を受けた後、質疑応答を実施。

2. 生徒への説明: 13:40~15:10

出席生徒 1年生24名、2年生20名 計44名

13:40 視聴覚教室において内航タンカー紹介DVD放映、出席各社の自己紹介

14:10 第1教室1年生、第2教室2年生に分かれ、組合側も2グループ7名ずつに分かれて質疑応答。

A班は班長三興海運(株)土井代表、B班は班長明和海運(株)山田総務部長にて進行した。

14:40 内タン講師陣が教室を移動し入れ替え。

15:10 質疑応答終了



(所見)

今年は訪問者数が事務局含め15名と盛況であった。DVD視聴、各社の自己紹介は視聴覚教室で全体で行い、生徒との質疑応答、懇親は学年ごと教室を用意してもらい講師陣が入れ替わることにした。校長挨拶にあったように内タンの学校訪問を年間の行事日程に位置づけられている。先生方と情報を共有しながら、受講する生徒の理解を深めるべくプレゼンの工夫を重ねたい。

講演会開催実施要領

1. 日 時 令和元年6月26日 (水) 9時30分～11時20分
2. 会 場 国立宮古海上技術短期大学校 視聴覚教室
3. 対 象 者 1年生44人及び職員
4. 目 的 内航船員の仕事について、各船会社の話を聞くことによって船員の仕事を理解し、船員になるための心得を身につけ、内航船への就職意識を高揚させる。
5. 講演会次第
 - (1) 開 会
(9 : 3 0 ~)
 - (2) 挨 拶
国立宮古海上技術短期大学校 校長 佐々木 透 氏

日本内航海運組合総連合会
船員対策委員会委員長 内藤 吉起 氏
 - (3) 講 演
 - ① DVD「海を駆ける若者たち」放映
(内航海運、内航船員の紹介)
 - ②内航船の種類、内航業界の採用や現状について
海運事業者13社
 - ③「めざせ！海技者セミナー in 仙台」について
東北運輸局海事振興部 船員労政課長 柳 田 悟 志 氏
 - (4) 質 疑 応 答
 - (5) 閉 会

※ 閉会后、同会場で個別に質疑対応

講演会参加事業者

日時 令和元年6月26日(水) 9:30～

会場 国立宮古海上技術短期大学校

番号	会社名等	役職	氏名	備考
1	邦洋海運 株式会社	取締役会長	内藤 吉起	日本内航海運組合総連合会 船員対策委員会委員長
2	浜崎海運 株式会社	専務取締役	浜崎 賢司	
3	太平洋沿海汽船 株式会社	船員課	安藤 良彬	
4	中央海運 株式会社	船舶部 部長代理	三井 誠	
5	日本ガスライン 株式会社	船舶部 課長代理	重信 周平	
6	株式会社 六青和シッピング	代表取締役	辰巳 幸寛	
7	幸洋汽船 株式会社	代表取締役社長	藤澤 敏則	
8	三興運油 株式会社	代表取締役	土井 秀一	
9	明和タンカー 株式会社	総務部長	山田 智昭	
10	鶴見サンマリン 株式会社	船舶グループ 海務担当次長	山岸 薫	
11	株式会社 エスワイプロモーション	取締役 海運事業部長 兼 採用担当	野間 司	
12	株式会社 デュカム	取締役 統括部長兼任船員部長	濱田 誠吾	
13	国華産業 株式会社	スーパーバイザー	本多 昭博	
14	東北運輸局	海事振興部 船員労政課長	柳田 悟志	
15	東北運輸局	海事振興部 船員労政課 労政係長	渡邊 哲朗	
16	東北運輸局岩手運輸支局	次長	佐藤 隆	
17	日本内航海運組合総連合会	審議役	藤岡 宗一	
18	日本内航海運組合総連合会	調査企画部副部長	畑本 郁彦	
19	東北内航海運組合	専務理事	木村 誠	
	合計		19名	

学校訪問報告書

訪問学校名	清水海上技術短期大学校
訪問年月日	令和元年 11 月 29 日 14 : 20 ~ 16 : 40
訪問者 16 名	藤澤社長 (幸洋汽船株)、宮政専務 (浅川汽船株)、坂間社長 (南洋海運株)、中村常務 (昭和日タンマリタイム株)、及川海務副部長 (上野トランステック株)、栗林船員部長 (株デュカム)、宗和チームリーダー (旭タンカー株)、佐藤主任 (浪速タンカー株)、本多スーパーバイザー (国華産業株)、重信主任 (日本ガスライン株)、山田総務部長 (明和タンカー株)、三井部長代理 (中央海運株)、齋藤総務部長・小川グループ長 (コスモ海運株)、久保田海務監督 (鶴見サンマリン株)、目次管理部長 (事務局)
学校側面談者	片岡校長、宮野副校長、泉岡学生課長、今教務課長ほか
実施事項	(1)先生懇談 (2)生徒全体説明・懇談 (本科 2 年生)
懇談・意見交換概要	
<p>(先生との懇談)</p> <p>学校の現況、内航タンカーの現況について各々報告の後、懇談を実施</p> <p>(学校の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定員 115 名で今期の入学者は 112 名 ・生徒出身は、関東、中部、九州、近畿、東北、中・四国の順 (中・四国は波方短大へ) ・毎年 95%以上が就職、海事関連への就職が大半 ・平成 30 年度卒業就職者 110 名中 61 名が内航 (うちタンカーは 29 名) ・現 2 年生は 19 名がタンカーに内定、現 1 年生は 13 名がタンカー希望 <p>(意見交換)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンカーの就職がここ 2 年間で下がっているが理由はあるか?…世代により人気の船種が変動し、必ずしもタンカーが不人気で定着している訳では無い。他の船種も求人数が伸び選択肢が広がったことも要因。 ・学校では女子の就職先に苦労しているが各社の女子採用の意向を聞きたい?各社回答し、大型船を所有している会社は全般的に前向きに検討との回答。 ・タンカーの魅力が学生に説明してもらいたいが、具体的には何があるか?危険物・荷役があるため給料が良い、夜間入港が無い、沈まない等。 ・タンカーと他の船種の給料の違いは?手当の種類が多いこと。(危険物、クリーニング等) ・デッキ:エンジン希望は、毎年 6 : 4 ~ 7 : 3 だが、会社としてはエンジン希望をもっと輩出して欲しいとの希望か?エンジンは不足しているのは事実だが、デッキの補充もコンスタントに必要であり、現在の比率はそれほど偏りが無いと思う。 <p style="text-align: center;">(1/2)</p>	

(生徒との懇談) 1年生 113名

・内航タンカー紹介DVD視聴、訪問各社自社紹介の後、生徒と懇談



(生徒からの質問)

- ・ケミカルタンカーが夜間荷役が出来ない訳は？
- ・長野県出身だが船員としての採用に問題無いか？
- ・自身は25才と他の学生より年長だが、採用の上で何を重視するか？
- ・タンカー／ケミカル船で、ガス発生時の積荷に対する船員の健康面での対策は？
- ・乗船中と休暇中の給料がどのように変わるか教えて欲しい？
- ・石油とケミカルで荷役時間の違いは？
- ・一般貨物船やRORO船は、荷役中陸に上がれると聞くがタンカーは？
- ・若い船員が働きやすい職場の環境作りとして何かしているか？
- ・平水タンカーの勤務体系と給料を教えてください？
- ・新人船員が、1日にどのような勤務体系で仕事をするか知りたい？
- ・地震・津波発生時の対処方法を教えてください？
- ・3ヶ月乗船1ヶ月休暇や2ヶ月乗船20日休暇等、会社によりパターンが違う意味は？
- ・エンジンはMOになるのでは無いか？
- ・社船実習を希望すれば受け入れてくれるか？
- ・機関員は荷役中にどのような作業をするか？
- ・陸上勤務となった場合、どのような仕事をしているのか？
- ・女性船員を採用する際に重視するポイントは？また取らない会社は何が障害か教えてください？

以上

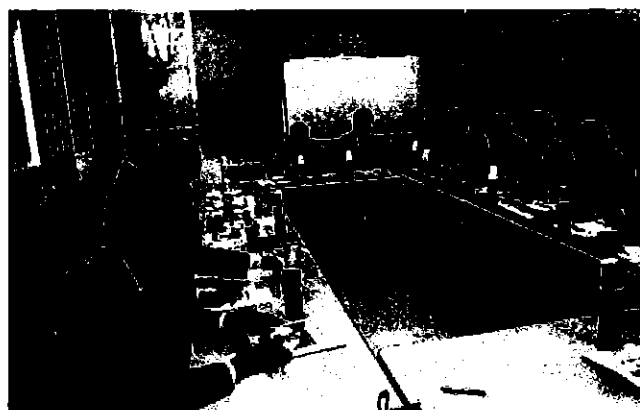
(2/2)

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	唐津海上技術学校
訪問年月日	令和元年 11 月 22 日 (金) 13:00~15:30
訪問者	松本 (松盛汽船)、阿部 (霧島海運商会)、山岸 (鶴見サンマリン)、栗林 (デュカム)、桐山 (上野トランス)、高橋 (昭和日タン)、尾崎・都築 (宮崎海運)、重信 (日本ガス)、本多 (国華産業)、旭タンカー (宗和)、中林 (西部支部)
学校側	高山校長、野村副校長、本山指導課長、他 7 教諭
実施事項	① 先生との懇談 ② 生徒全体説明 (2年生 36名 (女子 1名)、1年生 43名)
懇談・意見交換概要	
<p>先生との懇談概要</p> <p>○唐津校の現況・資料による現況説明 (入試状況、生徒数、入学者出身地、求人状況、進路状況等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡、長崎、佐賀出身者が大半を占めている。 ・タンカーへの就職率が多いが、各社の離職率を知りたい。 <p>○内航タンカーの現況を資料による説明</p>	
<p>生徒との懇談概要</p> <p>○訪問の趣旨、内航タンカーの役割、活動、設備等 (DVD、パンフレット) の説明</p> <p>○船社側作成のパワーポイントによる、石油製品の流通経路、タンカーでの仕事の様子、船内生活の状況、食事の種類等の説明がなされた。○出席各社の紹介</p> <p>○生徒との懇談会での質問事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中東での石油紛争について? 石油業界の現況説明。油の値段に変動があるも国民生活に必要である。 ・外航・内航タンカーの違いは? 外航タンカー、内航タンカーの仕事の仕組み、状況等を説明。 ・就職に当たって学生で必要なこと? 就職してから先輩の指導・意見をよく聞いて早く仕事を覚えること。また、必要な免許等は会社が費用を出してくれるので就職後に勉強すればよく心配する必要はない。学生時代に生活を楽しむこと。 ・就職してから注意する事は? 危険物を運搬しているので、決まり事を守る、先輩の意見・指示を必ず守る、任されたことは必ず実行する、隠し事はしない、自分勝手な行動をとらないこと。 ・各社のアピールは何ですか? 各社順番に社訓等を述べた。ホームページを参考にすること。 ・大型、小型タンカーの船員数? 各タンカーの現状を説明。 ・タンカー船の種類での作業の違い? 油の種類の説明、船型の違い等による作業実情の説明。 <p>○ 生徒への質問事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会社を選択するうえで、給料が多い方が良い、休暇が多い方が良い、賄は好きかについて手を挙げて答えさせると? 休暇が大多数、次に給料、賄は嫌だとある。 	

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	国立口之津海上技術学校
訪問年月日	令和2年1月22日(水) 15:00~16:30
訪問者	松本(松盛)、及川(上野トランス)、栗林(デュカム)、本多(国華)、岩永(浜崎)、山田(明和タ)、宗和(旭タ)、平野(昭和)、重信(日本ガス)、山口(本部)、中林(西部支部)
学校側	黒島校長、永田教務課長、早川指導課長
実施事項	1.先生との懇談 2.生徒への説明(2年生28名(女子1名),1年生31名計59名)
懇談・意見交換概要	
<p>先生との懇談概要(15:00~15:30)</p> <p>○学校の現況：教務課、指導課の資料による説明(入試状況、生徒数、求人・就職状況等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学試験等の状況：最近は受験者・入学者が減少傾向、出身県別では長崎県・熊本県が多数を占める。 ・海技資格の状況：昨年度と同数の4級口述合格率は航海が100%、機関が96%、両方が96%を見込む。 ・就職船種：29~30年度は大型貨物船が多かったが、最近の傾向として特タン船希望が増えてきている。 ・就職率は100%、地元の先輩からの紹介でのタンカー希望者が多い傾向にある。 <p>○内航タンカーの現況：資料による説明(組合組織、船齢、船員の高齢化問題)</p>	
<p>生徒との懇談概要(15:30~16:30) 1、2年生59名</p> <p>○訪問の趣旨、内航タンカーの役割、活動、設備等(DVD、パンフレット)の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内航タンカーのDVDでの説明 ・パンフレットを使用しての説明 <p>○出席各社の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各社から自己紹介と会社説明 <p>○船社側からの企業説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所属タンカーの現状及び会社の取り組み説明。 ・就職してから上級の免状を取得するのに、会社は応援しており諸費用はすべて会社が負担する。 	



・会社からの指示で休暇の取得のために日本全国の港湾で乗下船する。その時の交通費等は会社が負担するので安心すること。

・タンカー船は危険物を取り扱うので手当が付いてその分給料も多く、長期休暇を取得できるので海外旅行するもの、日本国内でも目的をもって長期間計画で楽しい旅行が出来る。

○生徒からの質問

・学校で取得すべき資格は何か？ 学校で学ぶもの以外は取得する必要はない。就職してから会社負担で取得させるので心配する必要はない。

・荷役に立ち会うと聞いたが時間は長いのか？ 船舶の大小で荷役ポンプ能力に差があり、また陸上側の受け入れ能力に違いがあるので一定しない。立ち会いや点検作業には手当がつく。



・3ヶ月乗船で長時間勤務と聞いたが勤務体制は？ 航海する時は当直を組んでおり通常は4時間当直で交代している。普通は合計すると8時間勤務である。3か月乗

船とあるが海上を3ヶ月連続して航海するのではなく、航海日数は二日前後で荷役は岸壁に着岸して行うので、荷役終了後、次の出航時間まで上陸できることもある。乗船して下船する間の船内に拘束されている時間が長いことである。乗船中は多くの港を回るのでそれぞれの景色を楽しむのも生活に張りが出る。長期の休暇を利用して海外旅行を楽しんでいる若者が多い。

○その他

・最後に内航タンカーの説明を聞いて就職を希望することについて聞いたところ、約3分の2の生徒が手を挙げた。

訪問時の求人 数	(人)	訪問経費 (内タンへの請求金額・ 領収書添付)	
-------------	-----	-------------------------------	--

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	独立行政法人海技教育機構 国立波方海上技術短期大学校
訪問日	令和元年 11 月 13 日
訪問者	四国支部長 山本 宗宏 他 24 名(別紙訪問者出席表添付)
学校側面談者	校長 澤田幸雄・副校長 中山信一郎 他 3 名
実施事項	第一部学校側と組合側の現状説明会 第二部生徒全体への説明会 第三部情報交換懇談会

第一部 学校側と組合側の現状説明会 (学校関係 5 名・組合側 25 名)



第二部 生徒全体への説明会 (1 年生 88 名 教員 6 名)



第三部 事業者と学校側との意見交換・懇談会



学校訪問の概要

- (1) 上記の実施事項欄の3部会にて実施した。
- (2) 部会別では

第一部 学校と組合の現状説明と情報交換会

・学校作成資料の説明

資料1 実受験者数 28年度がピーク。以降は漸減推移していたが31年度は回復し定員90名に対して実受験者175であった。

資料2 受験者の出身地では九州と四国出身者で53.3%を占める。

資料3 四級海技士口述試験結果は28年から目標値の95%以上の合格を堅持している。

資料5 ・令和元年度卒業者の就職内定状況は、タンカー就職者23名・前年比+4名。貨物船32名・前年比+4名、フェリー旅客船7前年比▲12名。
・タンカー会社に就職した新卒者の選択理由は、1位給与が高い・2位長期乗船、長期休暇・3位自炊しなくて良い・4位雰囲気。
・貨物船に就職者の選択理由は上記と異なり雰囲気が1位であった。
・乗船体験参加者数は近年急増(29年25名・30年42名・元年55名)乗船体験会社に就職した者は13%と低い。乗船体験報告会等へ参加し入手した情報を参考に就職先を決定したケースも多発している。

第二部 生徒への説明会(内航タンカーは若い力を求めています DVD 放映→参加組合員の自己紹介→質疑応答を実施)

- ・学生から多岐にわたる質問が続出し極めて充実した説明会内容であった。

質疑内容の一部

- ・災害支援をした際、国から船主そして船員へと指示のステップは、どの様な過程がありましたか。

山口部長と実際に出航した船主の社長が出席しており、当時の船員の熱い思いも発表され全員がこみ上げてくる想いを噛み締めた。

- ・危険物の取扱いに知識がなく不安である。
- ・人材(船員)の評価基準・方法は統一されていますか。
- ・タンカー船の良いところは何ですか。
- ・入社の手前習得すべき技能・知識はありますか。
- ・30歳の学生から年齢ハンディはありますか。
- ・タンカー就職を希望する学生(挙手ベース)26名 30%。 等々

第三部 教職員との情報交換並びに懇談会

- ・同校の就職内定時期は他校より早く7月～9月にほぼ内定する。
- ・校長・副校長・教諭等との個別名刺交換時間を設定し実施した。

(3) まとめ

同校から毎年多数の卒業生が組合員企業に入社している事もあり従来から極めて良好な関係を維持してきた。

今後も両者が安心と安全を求める生徒の教育と企業体質を維持する事を共感しつつ終了した。

以上

		訪問経費 領収書添付	
--	--	---------------	--

学校訪問参加企業名簿

令和元年 11月 13日

全国内航タンカー海運組合

四国支部

1、学校名 独立行政法人海技教育機構
国立波方海上技術短期大学校

2、訪問日 令和元年 11月 13日(水曜日)

3、参加者(27名) (順不同)

番号	企 業 名	参加者職位	参加者氏名	企 業 所 在 地
1	山本汽船(株)	社 長	山本宗宏	松 山 市
2	明神海運(株)	社 長	庭瀬秀男	松 山 市
3	大西海運(株)	代表取締役専務	大西祥太郎	呉 市
4	和泉海運(株)	社 長	和泉雅彦	西 予 市
5	如月汽船(株)	社 長	坂邊幸信	今 治 市
6	金力汽船(株)	社 長	多田憲司	今 治 市
7	宝山汽船(株)	社 長	野間福男	今 治 市
8	上野トランステック(株)	海務部副部長	及川正文	東 京 都
9	昭和日タンマリタイム(株)	取 締 役	平野雅弘	東 京 都
欠席	明和タンカー(株)	総務部長	山田智昭	東 京 都
11.	松盛汽船(株)	社 長	松本雅彦	佐 伯 市
12.	朝日海運(株)	取 締 役	三宅恭介	今 治 市
13.	三ツ浜汽船(株)	海 務 部	藤岡良孝	松 山 市
14.	東 汽 船 (株)	社 長	越 智 崇	今 治 市
15.	日本ガスライン(株)	常務取締役	木下一延	松 山 市
欠席	浪速タンカー(株)	船員部課長	新町聡士	大 阪 市
17.	浅川汽船(株)	専務取締役	宮 政 彰	今 治 市
18.	三鳳汽船(株)	社 長	三 宅 太	今 治 市
19.	青野海運(株)	船員部課長	真木慎一	新 居 浜 市
20.	宮崎海運(株)	海 務 部	都 築 正 雄	今 治 市
21.	国華産業(株)	スーパーバイザー	本多昭博	東 京 都
22.	旭タンカー(株)	船員チームリーダー	宗和孝明	東 京 都
23.	鶴見サンマリン(株)	船舶グループ部次長	山 岸 薫	東 京 都
24.	興栄海運(株)	社 長	千 守 淳	松 山 市
25.	全国内航タンカー海運組合本部	海工務部長	山 口 孝 次	東 京 都
26.	同 四 国 支 部	事 務 局 長	松 原 智 典	松 山 市
27.	同 四 国 支 部	事 務 次 長	渡 部 壽	松 山 市

以上

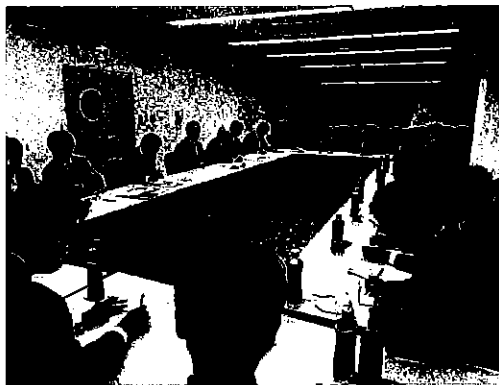
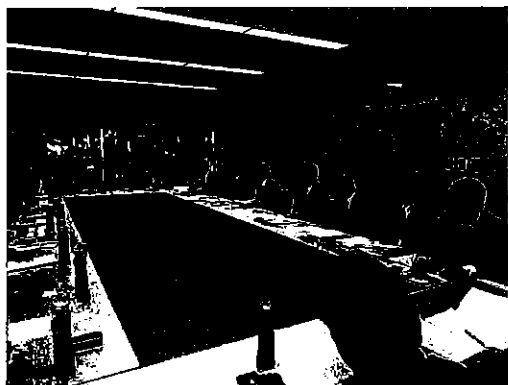
学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	海枝大学校		
訪問年月日	令和 1年11月14日		
訪 問 者 (氏名・社名・役職 ・別紙添付も可)	北 雅之 (田渕海運㈱) 笹木重雄 (東幸海運㈱) 松波道男 (㈱辰巳商會) 宮津昌伸 (イイノガストランスポート㈱) 萩野靖也 (二共海運㈱) 白石沙苗 (白石海運㈱) 山田智昭 (明和タンカー㈱) 宗和孝明 (旭タンカー㈱) 本多昭博 (国華産業株) 平野雅弘 (昭和ニッタンマリアイム㈱) 辰巳幸寛 (㈱六青和 SHIPPING) 志賀辰也・三井 誠 (NS ユナイテッドタンカー㈱) 山口孝次 (本部事務局) 上村 良 (関西・葉槽船支部)		
学校側面談者 (氏名・役職)	堀校長 近藤学務部長 杉田航海科長 吉原学生課長 大野先生 山本先生 菊地先生 斎藤先生		
実施事項 (○印)	○(1)生徒全体説明 ○(2)学校側懇談 (3)個別就職相談 (4)懇親会		
懇談・意見交換概要 (別紙添付も可)			
<p>◎先生方との懇談</p> <ul style="list-style-type: none"> ・北委員長挨拶の後、 堀校長より挨拶がなされ、訪問に対する謝辞が述べられた。 その後各先生方を交え、フリートーキングに入った。 <p>(概要別紙添付)</p> <p>◎出前授業について</p> <p>(概要別紙添付)</p>			
訪問時の 求人数	0 (人)	訪 問 経 費 (内タンへの請求金額 ・領収書添付)	36,370 (円)

◎先生方との懇談

北委員長、堀校長より挨拶が述べられた後、フリートーキングを実施。
堀校長より、海技教育機構のこれからについて大まかに説明がなされた。
同校の卒業生は、毎年30名卒業し、ほぼ船員になり船舶の仕事に従事しているとの事であった。
海技教育機構の練習船が5隻から4隻体制になるので、各社の社船を利用させていただくことによる社船実習等を活用していきけるようにしていきたい旨説明あり。

◎先生方との懇談風景



◎生徒への出前授業

生徒への出前授業は、海上技術コース1年生19名に対して実施。

最初に内タン製作のDVDを見てもらい、そのあと松波氏がタンカーの乗組員についての補足説明を行った。

その後学生を3グループに分けグループトークを行った。

学生は全員、海運会社への就職志望であった。

◎グループトークでの質問等

Q フェリーとタンカーの違いは。

A フェリーは定期航路だが、タンカーは不定期航路で運航時間もまちまちである。

Q フェリーからタンカーに転職は可能か。

A 可能である。

Q 入社時は部員からのスタートなのか。

A 内航では、どこの会社でも部員からのスタートが多い。

Q 乗船期間は。

A 基本的には、3ヶ月乗船の1ヶ月休暇。

会社によっては、その都度の都合により、若干違うところもある。

Q 一人前になるまでどれくらいかかるか。

A 努力次第会社の規程などで変わるが、概ね3年で・・・頑張ってください。

Q 上司とうまくいく人の特徴は。

A コミュニケーション能力のすぐれている人。

Q 飲酒できるのか。規程はあるのか。船内で飲み会はあるのですか。(お酒が好きな学生)

A 飲酒規程はある。規定に従って飲酒することになる。

Q 休暇はきちんと付与していますか。

A グループ内の各社が現状を説明。

Q ケミカルタンカーの特色を教えてください。

A 石油から精製した化学製品を輸送。

A オイルタンカーより船のサイズは小型。

A 499～749 トンの船が主流。

Q 若手船員の定着率は。

A グループ内の各社が現状を説明。

Q 危険物等の資格は必要ですか。

A 必要なし、入社後各社の費用で必要な資格講習が受けってもらうようになる。

- Q ケミカルタンカーは危なくないのか。
- Q 外航希望だが外航船に乗るにはどのようなスキルが必要か。
- Q タンカーに乗るには、研修があるのか。また、どのような資格が必要か。
- Q 陸上勤務のスペンは、どれくらいですか。
- A 各社会社の都合によるので、一概に言えない。
- Q 全体の年齢層は。
- A 30～40代がすくないので、若くなっている。
- Q 荷役時間は。
- A 船の大きさや積み荷によって変わる。
- Q 外国人の雇用については。
- A 現状、日本の内航船は、日本人のみです。
- Q 外航船に乗るための条件は。
- A 海技免状 2級以上 語学力 会社に自分をアピールし、売り込むこと。
- Q SOX の問題について教えてください。
- A セパレーターを付けたり、硫黄分の少ない燃料油への変更など、わかりやすく説明。
- Q タンククリーニングはどのくらいの時間でどのようにするのか。
- A 積荷やタンクの大きさで変わるという前置きの説明の後、各社の説明を実施。

各グループでの質問が多かったため、次回は、グループトークの時間を増やした方がいいとの意見があった。

先生との雑談の中で、グループトークの在り方（時間の問題）

グループトークの際、全生徒が参加企業全社と話しできるように検討願いたい旨要望があった。

グループトークの他の方法はないのか。

等出されたようである。

◎出前授業風景



◎グループトーク風景



以上

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	北海道小樽水産高等学校
訪問年月日	令和2年2月5日（水）
訪問者 （順不同）	昭和日本マリンタイム(株)高橋社長、幸洋汽船(株)藤澤社長、(株)デュカム栗林船員部長、鶴見サンマリン(株)木下船舶グループ部長、浅野海務監督、旭タンカー(株)宗和船員TL、上野トランステック(株)桐山海務部長、英雄海運(株)新井海務課長、明和海運(株)山田総務部部長、国華産業(株)本多スーパーバイザー、安斉管理部係長、(株)霧島海運商会阿部取締役、事務局山口 計13名
実施事項（○印）	① 生徒全体説明 ② 学校側懇談 ③ 個別就職面談 ④ 懇親会（参加者）

懇談・意見交換概要

1. 教職員との懇談会 09:00～09:35

学校側出席者：進路指導部長村上教諭、海洋漁業科粉山教諭他 計5名

【特記事項】

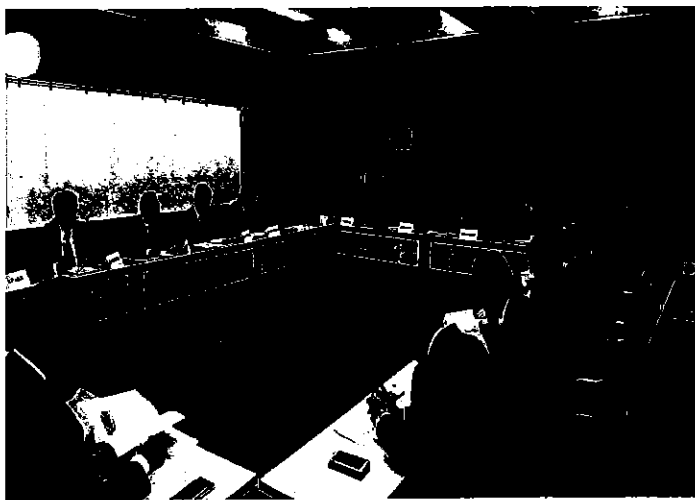
- ・ 内タン船員対策委員会副委員長の高橋氏が参加者を代表して挨拶。
学校側より進路指導部長村上教諭から挨拶に引き続き、本科・専攻科生徒の過去5年間及び直近の就職状況並びに在学中の各種資格取得状況について配布資料に基づき詳細な説明をして頂いた。残りの時間で学校側との質疑応答を行った。

2. 生徒への説明：09:45～10:35

出席生徒 海洋漁業科2年生40名

視聴覚教室において内航タンカー紹介DVD放映、出席各社の自己紹介

生徒との質疑応答を行い、短い時間ではあったが各質問に対し出席者全員が回答及び所感を発表した。



（所見）

今年は訪問者数が事務局含め13名と盛況であった。DVD視聴、自己紹介の後、生徒との質疑応答は限られた時間であったが、生徒から積極的に質問が出され、各参加者には手際よく説明して頂き、集中して充実した説明会となった。

学校側が全参加者別の席札を準備して頂いていたので、直前の参加メンバー変更に対応するため、今後、参加者名簿の最終連絡を行うことを心掛けたい。

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	北海道函館水産高等学校
訪問年月日	令和元年12月10日(火)
訪問者 (順不同)	上野トランステック(株)及川副部長、昭和日タンマリタイム(株)平野取締役、 幸洋汽船(株)藤澤社長、(株)デュカム栗林船員部長、鶴見サンマリン(株)木下部長、浅野海務監督、 英雄海運(株)新井海務課長、(株)アズーロジャパン佐藤主任、国華産業(株)本多スーパーバイザー (株)エスワイプロモーション野間取締役、(株)六青和 SHIPPING 辰巳社長、吉野谷海運(株)吉野谷社長 事務局山口 計13名
実施事項 (○印)	(1) 生徒全体説明 (2) 学校側懇談 (3) 個別就職面談 (4) 懇親会 (参加者)

懇談・意見交換概要

1. 教職員との懇談会 15:00~15:30

学校側出席者 : 中野教諭 (進路指導部) 機関工学科 1名

【特記事項】

- 学校側より学校案内とともに最近の進路について説明があった。
 昨年は7割就職、3割進学であったが、今年は6割就職、4割進学となっている。
 今年はタンカーへの就職希望者は無かった。
 就職の内定率は97%で船舶希望者は全員就職決まった。
 フェリーに本科から初めて就職した。
 先週、海員組合から1~2年生を対象に海上職について説明会が開催された。来年から
 定例にするとのこと。

2. 生徒への説明: 15:30~16:30 出席生徒 本科2年生及び3年専攻科希望 計51名 (内、女子4名)

1. 内航タンカー紹介DVD放映
2. 出席各社の紹介
3. 生徒との懇談での質疑応答内容

【主な質問事項】

- 在学中に取得しておいたら良い資格は?
- 危ないことはあるか?
- 女子の採用状況は?
- 休暇について?
- 乗船中の生活とは?



(所見)

当初、今年のタンカー希望者はゼロであったとのことから、内航タンカーの使命と待遇面に力を注いで説明した。最後にタンカー乗船希望を聞いたところ8名ほどが意思表示をしてくれた。生徒のDVD視聴において、パソコンにスピーカーが接続されていなかったため、平野氏にご足労願ひ会社まで取りに帰ってもらった。次回は事前確認を心掛けたい。

以上

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	青森県八戸水産高等学校
訪問年月日	令和元年12月11日(水)
訪問者 (順不同)	上野トランステック(株)及川副部長、昭和日タンマリタイム(株)竹駒グループマネージャー、幸洋汽船(株)藤澤社長、(株)デュカム栗林船員部長、鶴見サンマリン(株)浅野海務監督、英雄海運(株)新井海務課長、(株)アズーロジャパン佐藤主任、国華産業(株)本多スーパーバイザー、(株)エスワイプロモーション野間取締役、(株)六青和 SHIPPING 辰巳社長、事務局山口 計11名
実施事項 (○印)	(1) 生徒全体説明 (2) 学校側懇談 (3) 個別就職面談 (4) 懇親会 (参加者)

懇談・意見交換概要

1. 教職員との懇談会 10:20~10:30

学校側出席者 : 工藤教諭 (実習船管理部) 他22名

【特記事項】

- ・ 内タン出席者から自己紹介、事務局より業界動向の説明に引き続き、学校側より学校案内とともに最近の進路状況について説明があった。
就職環境は良好な状態で推移している。昨年専攻科漁業科、機関科からそれぞれ内航タンカーに就職者を輩出している。
当日、校長は不在であったが、学校をあげて学校訪問に対応して頂き、教員23名の出席となった。

2. 生徒への説明: 10:50~11:50

出席生徒 専攻科1年生14名及び2年生3名 計17名 (内、女子1名)

1. 内航タンカー紹介DVD放映
2. 出席各社の紹介
3. 生徒との懇談での質疑応答



(所見)

DVD視聴、各社からの説明で生徒には内航タンカーの概要が伝わったと思われるが、質疑応答の時間をとったもののやや一方的な説明会に終わった感がある。
最後にタンカー乗船希望を聞いたところ意思表示をする生徒はいなかった。
次回は生徒が話しやすい環境を作るよう心掛けたい。

以上

進路ガイダンス及び懇談会実施要綱

1. 開催日時 令和元年6月25日（火） 13時45分～15時30分
2. 会場 岩手県立宮古水産高等学校（視聴覚教室）
〒027-0024
宮古市磯鶏三丁目9番1号
3. 対象者 海上就職、専攻科進学を希望する航海系、機関系、調理系3学年及び専攻科約30名
4. 目的 船員の魅力、船員の現状等、現場の話を伺い、船員としての心得を理解し、進路意識を高める。
5. 内容 DVD鑑賞及び仙台で開催される「めざせ！海技者セミナー in 仙台」について概要説明を行う。
また、内航事業者13社により、ブース（テーブル、いすを用意）ごとに、企業と生徒の面談方式で実施する。
6. 次第
 - (1) 開 会
(13:45～)
 - (2) 挨拶
日本内航海運組合総連合会
船員対策委員会委員長 内藤 吉起 氏
 - (3) DVD放映及び「めざせ！海技者 in 仙台」について
13:50～
 - ① DVD「海を駆ける若者たち」放映
 - ② 「めざせ！海技者セミナー in 仙台」開催等について
東北運輸局海事振興部 船員労政課長 柳田 悟志 氏
 - (4) ブースごとに事業者対応
生徒が、各ブースをを回り、内航船の種類、内航業界の採用や現状について、説明・質疑を行う。
海運事業者13社
 - (5) 閉 会

※閉会后、先生方と意見交換

進路ガイダンス及び懇談会

日時 令和元年6月25日(火) 13:45～

会場 岩手県立宮古水産高等学校

番号	会社名等	役職	氏名	備考
1	邦洋海運株式会社	取締役会長	内藤 吉起	日本内航海運組合総連合会 船員対策委員会委員長
2	浜崎海運株式会社	専務取締役	浜崎 貴司	
3	太平洋沿海汽船株式会社	船員課	安藤 良彬	
4	中央海運株式会社	船舶部 部長代理	三井 誠	
5	日本ガスライン株式会社	船舶部 課長代理	重信 周平	
6	株式会社 六青和シッピング	代表取締役	辰巳 幸寛	
7	幸洋汽船株式会社	代表取締役社長	藤澤 敏則	
8	三興運油株式会社	代表取締役	土井 秀一	
9	鶴見サンマリン株式会社	船舶グループ 海務担当次長	山岸 薫	
10	株式会社 エスワイプロモーション	取締役 海運事業部長 兼 採用担当	野間 司	
11	株式会社 デュカム	取締役 統括部長兼任船員部長	濱田 誠吾	
12	国華産業株式会社	スーパーバイザー	本多 昭博	
13	興和海運株式会社	取締役海務部長	近江 喜代彦	
14	東北運輸局	海事振興部 船員労政課長	柳田 悟志	
15	東北運輸局	海事振興部 船員労政課 労政係長	渡邊 哲朗	
16	東北運輸局岩手運輸支局	次長	佐藤 隆	
17	日本内航海運組合総連合会	審議役	藤岡 宗一	
18	日本内航海運組合総連合会	調査企画部副部長	畑本 郁彦	
19	東北内航海運組合	専務理事	木村 誠	
	合計		19名	

進路懇談会実施要領

1. 日 時 令和元年7月9日(火) 13時30分～16時00分
2. 会 場 宮城県水産高等学校 視聴覚室
3. 対 象 者 海上就職、専攻科進学を希望する航海系、機関係、調理系3学年及び2学年、専攻科(機関、航海)コース2学年 計63名
4. 目 的 船員の魅力、船員の現状等、現場の話を伺い船員としての心得を理解し、進路意識を高める。
5. 講習会次第
 - (1) 開 会 (13:30～)
 - (2) 挨拶
宮城県水産高等学校長 瀧田 雅樹 氏
 - (3) 講 習 13:35～
 - ① DVD「海を駆ける若者たち」放映
(内航海運、内航船員の紹介)
 - ②内航船の種類、内航業界の採用や現状について

興和海運(株)	取締役海務部長	近 江 喜代彦 氏
東北海運産業(株)	取締役業務部長	村 方 一 男 氏
近郵船舶管理(株)	取締役船舶部部长	上迫田 晃 氏
近郵船舶管理(株)	船舶部副部长	山 口 政 弘 氏
(株)六青和 SHIPPING	代表取締役	辰 巳 幸 寛 氏
昭和日タンマリタイム(株)	取締役	平 野 雅 弘 氏
鶴見サンマリン(株)	船舶グループ海務担当次長	山 岸 薫 氏
浪速タンカー(株)	船員部課長	兼 松 聖 氏
国華産業(株)	運航管理部スーパーバイザー	本 多 昭 博 氏
 - ③「めざせ!海技者セミナー in 仙台」について
東北運輸局海事振興部 船員労政課長 柳 田 悟 志 氏
 - (4) 質 疑 応 答
 - (5) 閉 会
※閉会后、先生方と意見交換

進路懇談会出席者名簿

1. 日 時 令和元年7月9日（火）
 13時30分～16時00分
2. 会 場 宮城県水産高等学校 視聴覚室

興和海運（株）	取締役海務部長	近江 喜代彦
東北海運産業（株）	取締役業務部長	村芳 一男
近郵船舶管理（株）	取締役船舶部部长	上道田 晃
近郵船舶管理（株）	船舶部副部长	山口 政弘
（株）六青和 SHIPPING	代表取締役	辰巳 幸寛
昭和日タンマリタイム（株）	取締役	早野 雅弘
鶴見サンマリン（株）	船舶グループ海務担当 次長	山岸 薫
浪速タンカー（株）	船員部課長	兼松 壘
国華産業（株）	運航管理部スーパーバイザー	本多 昭博
東北運輸局	海事振興部 船員労政課長	柳田 悟志
東北運輸局	海事振興部 船員労政課 労政係長	渡邊 哲朗
東北内航海運組合	専務理事	木村 誠

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	福島県立いわき海星高等学校
訪問年月日	令和2年2月19日(水)
訪問者 (順不同)	幸洋汽船(株)藤澤社長、(株)デュカム栗林船員部長、英雄海運(株)新井海務課長、 明和海運(株)山田総務部長、(有)六甲船舶小野田取締役、国華産業(株)本多スーパーバイザー 事務局山口 計 7名
実施事項 (○印)	(1) 生徒全体説明 (2) 学校側懇談 (3) 個別就職面談 (4) 懇親会(参加者)

懇談・意見交換概要

1. 生徒への説明 13:30~14:10

出席生徒：1~3年生 聴講希望者のみ参加 1年生2名、2年生17名、3年生15名 計34名

- ・ 内航タンカー紹介DVD放映
- ・ 出席各社の自己紹介
- ・ 生徒との懇談での質疑応答

生徒への説明時間が短かったが、逆に集中できたのか生徒から積極的な質問を受け、訪問者全員で回答を行った。

内航タンカーへの就職を希望するか聞いたところ、10数名が元気よく手を挙げた。

2. 学校側との面談：14:20~15:00

面談者：海洋工学科長 岩下教諭、進路指導主事 安藤教諭、海洋科科长 坂田教諭。

- ・ 生徒説明に先立ち訪問者代表を代表して事務局が松本校長に挨拶を行った。
- ・ 教諭陣との面談で、学校の全般的な状況の説明を受けた。

4学科各定員40名で在校生は各学科学年とも概ね35名。就職状況は良好で進学者もある来年度、本校と小名浜高校が合併する予定とのこと。



(所見)

専攻科生徒(海洋科、機関科各10名)は乗船実習中で今回の学校訪問とのタイミングが合わなかった。学校側は来年度も訪問を期待するが、専攻科生徒に参加させたい。次回日程は2021年4月中旬が最適とのこととそれで調整することとした。

以上

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	茨城県立海洋高等学校
訪問年月日	令和2年2月20日（木）
訪問者 （順不同）	幸洋汽船(株)藤澤社長、(株)デュカム栗林船員部長、明和海運(株)山田総務部長、 (有)六甲船舶小野田取締役、国華産業(株)本多スーパーバイザー (株)六青和 SHIPPING 辰巳社長、(株)アズーロジャパン佐藤主任 事務局山口 計 8名
実施事項（○印）	(1) 生徒全体説明 (2) 学校側懇談 (3) 個別就職面談 (4) 懇親会（学校側と昼食）

懇談・意見交換概要

1. 学校関係者との懇談

- ・ 勝村校長に挨拶（09:20～09:30）校長室で訪問者全員
- ・ 12:00 学校近辺で昼食をとりながら勝村校長含む4名の教員と懇談、情報交換を行った。

2. 生徒への説明と質疑応答：09:50～11:40

受講生徒：海洋技術科 17名全員(定員40名)

内航タンカー紹介DVD放映

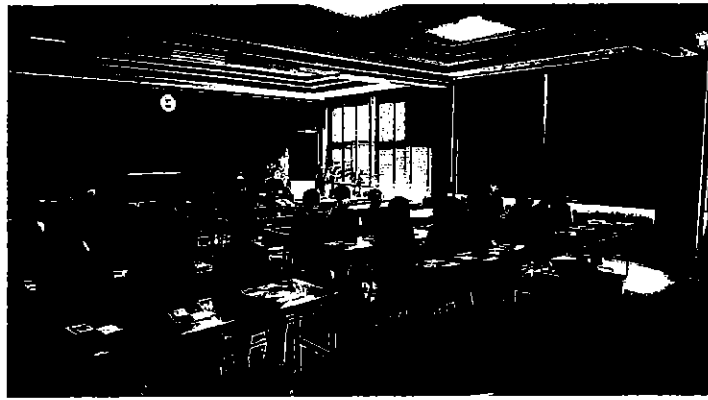
出席各社の紹介

生徒との懇談での質疑応答

【特記事項】

生徒への説明時間が十分あったので、DVD放映の後、質疑応答に先立ち栗林氏に追加説明として5000KL石油タンカーの設備についてパワーポイントで説明してもらった。

その後、生徒からの質問について参加者全員で回答していった。



(所見)


説明を行った現2年生に船員志望を聞いてみるとまばらであった。

後ほどの先生との懇談で、現1年生は船員志望がたくさんいるので是非来年も訪問して欲しいとのこと。


いわき海星高校を4月中旬に訪問することにしたので同じタイミングでの訪問を打診したところ問題なしとのこと。次回は2021年4月中旬が良いと思う。

以上

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	神奈川県立海洋科学高等学校（旧三崎水産）
訪問年月日	令和元年 12 月 4 日 13:00～15:30
訪 問 者 11 名	藤澤社長（幸洋汽船㈱）、高橋社長（昭和日タンマリタイム㈱）、 栗林船員部長（㈱デュカム）、武川船員チーム員（旭タンカー㈱）、 佐藤主任（浪速タンカー㈱）、本多スーパーバイザー（国華産業㈱）、 辰巳代表取締役（㈱六青和 SHIPPING）、阿部取締役（㈱霧島海運 商会）、岩永船員係長（浜崎海運㈱）、三井副部長（中央海運㈱）、 目次管理部長（事務局）
学校側面談者	高木総括教諭、澤村教諭、秦教諭、三浦教諭、小松教諭
実施事項	(1)学校側懇談、生徒説明
懇談・意見交換概要	
<p>(学校及び就職の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 船舶コース（5級筆記免状）1年生 38名、2年生 39名、3年生 39名 ・ 専攻科（3級免状）1年生…航 9名、機 7名、2年生…航 10名、機 4名 ・ 本年 4月就職、本科 5名船員、専攻科 18名中 17名船員 ・ 専攻科は、航海 10、機関 10 の定員があるため、本科で船員希望は専攻科進学 ・ タンカー会社へも毎年数名が就職 ・ 求人票の提出時期は決まっているが、求人希望は早めに就職担当教諭に情報求む ・ SNS 等で辞めた船員の評判より現職の先輩にアドバイスを求めるよう依頼…同校は地元出身者が多いため卒業後も学校に来る先輩が多く、情報は良く入る旨説明あり 	
	
<p>(生徒との懇談、質疑応答) 本科の乗船希望生徒 38 名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初任給はいくらか？ ・ 何年で士官になれるか？ ・ 黒船、白船、ケミカル等の用語の意味は？ ・ 内航船にはなぜ外国人が乗っていないのか？ ・ 乗船、下船の周期は？乗下船の場所は？下船中は何をしているのか？ ・ 会社の所在地をこだわる必要が無いとの意味は？ ・ 乗船中に陸に上がる機会はあるか？ 	

学校訪問報告書

訪問学校名	静岡県立焼津水産高等学校
訪問年月日	令和元年 11 月 18 日 12 : 00～14 : 20
訪問者 12 名	藤澤社長（幸洋汽船㈱）、及川海務副部長（上野トランステック㈱）、栗林船員部長（㈱デュカム）、宗和チームリーダー（旭タンカー㈱）、佐藤主任（㈱アズーロジャパン）、新井海務課長（英雄海運㈱）、本多スーパーバイザー（国華産業㈱）、野間取締役（㈱エスワイプロモーション）、辰巳代表取締役（㈱六青和 SHIPPING）、阿部取締役（㈱霧島海運商会）、難波業務部長、目次管理部長（事務局）
学校側面談者	千野教諭、栗山教諭、古川教諭
実施事項	(1)先生懇談 (2)生徒全体説明・懇談（本科 2 年生）
懇談・意見交換概要	
<p>(先生との懇談)</p> <p>学校の現況、内航タンカーの現況について各々報告の後、懇談を実施</p>  <p>(学校の現状)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海技免状を取る海洋科学科は定員 40 名、食品、栽培等含むと 1 学年 180 名以上 ・昨年卒業生 188 名中、140 名が就職、進学者中 15 名は専攻科へ進学（航海 10、機関 5 名） ・本科は 5 級筆記免状、専攻科は 3 級取得 ・昨年卒業専攻科生 14 名中、漁船 10 名、商船 4 名就職 ・現専攻科 1 年生 15 名は、商船系への就職希望者が多い（年によって変わる） ・タンカー関係への就職は、昨年、今年と無い（1 名不合格含む） <p>(意見交換)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性が乗れる船、会社を業界から学校へ発信して欲しい ・インターンシップは学校のインターンシップ保険に加入しているため、会社で活用願いたい ・ここ 1～2 年はタンカー会社への就職が無いが、内タンが学校訪問を開始以降、タンカー就職の実績が出ており、選択肢を広げる意味でも、このような機会は学校でも希望する <p style="text-align: center;">(1/2)</p>	

(生徒との懇談) 2年生 60名 (海洋科学科 40名、食品・養殖関係 20名)

・内航タンカー紹介DVD視聴、訪問各社自社紹介の後、生徒と懇談



(生徒からの質問)

- ・ 賄いは、新人が実施するのか？ (司厨長が乗っていないとの認識による質問)
- ・ 給料はどのくらいもらえるか？
- ・ 海技士以外に資格は必要か？
- ・ 船員になっても女性との出会いの場はあるか？
- ・ wifi 環境は整っているか？
- ・ 船型による機関出力の大きさを教えて欲しい？
- ・ つらいことと、やりがいを教えて欲しい？
- ・ 休暇は守られるか？

(生徒への質問)

- ・ 自身が船員として乗船するに際して、何を一番重要と考えるか？

挙手の結果 ①給料…10名 ②休暇…20名 ③人間関係含む船内環境…3名

(2/2)

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	愛知県立 三谷水産高等学校		
訪問年月日	令和元年12月12日(木)		
訪 問 者 (氏名・社名・役職 ・別紙添付も可)	木村美幸、八木理恵子(木村海運㈱) 磯合信之(三興海運㈱) 宮津昌伸(イノガストランスポート) 北川武彦(光隆海運㈱) 仲野仁太(東海タンカー㈱) 松浦一夫 東海支部 支部長(幸福船舶㈱) 高橋道男(東海支部 事務局長) 上村 良 (関西・薬槽船支部次長)		
学校側面談者 (氏名・役職)	柿原教頭、牧平先生(進路指導, 工学コース)		
実施事項(○印)	○(1)生徒全体説明 (2)学校側懇談 (3)個別就職相談 (4)懇親会		
懇談・意見交換概要(別紙添付も可)			
<p>出前講座に先立ち、校長室にて柿原教頭、牧平進路指導教諭と本日参加の各会社訪問者との懇談を実施。</p> <p>先生から同校生徒の進路、就職状況、生徒たちの意識傾向等について意見交換を行った。その後、視聴覚室にて同校工学コース2年生17名に対し、松浦支部長挨拶の後、内タン作成のDVD「内航タンカーはいま、若い力を求めています」を上映、また、配布の内タンパンフレットをもとに、タンカーの職種、船員の仕事及び必要な海技資格の種類等ついて、説明を行った。その後、2グループに分け、各グループでのフリートークを実施した。</p> <p>各グループではそれぞれタンカー乗組員と他の船舶乗組員との給料の違い、内航船での必要な海技資格、船と陸上職員との給料、生活面での違い等質問があり、各説明を行った。</p>			
訪問時の 求人数	(人)	訪問経費 (内タンへの請求金額 ・領収書添付)	(円)

グループトークングの中で、本日出席の学生17名に高卒後の進学、就職等について聞いてみたところ、

専攻科志望 6名、 大学進学希望 5名、 就職 6名

であり、専攻科に進み、船員を志望しているものは4名いた。

就職については地元の造船所、家業の漁船乗船(漁業)等地元で実家から通勤できる場所で働きたいとのこと。

また、1グループ(8人)の方で船員の魅力を給料と休暇ではどちらを優先するかを2択で聞いたところ

休暇の方を重く考えている5名、給料の方が3名であった。(まだ高2では、イメージがわいてないように思われる。)

生徒からの質問事項については、以下のとおり

- ・船員給与の手取りは(陸上での給与と海上勤務での差額は)
- ・休暇のローテーションは(3ヵ月乗船、1ヵ月休暇のとおりか)
- ・船員になるには、海技免状以外で必要とされる資格は
- ・陸上勤務でも必要な資格はあるか

等の意見があった。

また、今回の訪問担当者から、1度だけの話だけでは、関心を示しにくいように思われ、今後は、生徒達に1度だけの話だけではなく、高校生活3年間の間に少なくとも2回は内航海運についてよく説明した方が、良いのでは、との意見もあった。



先生との懇談



グループトークングの様子

訪問時の 求人数	(人)	訪問経費 (内タンへの請求金額 ・領収書添付)	
-------------	-----	-------------------------------	--

学 校 訪 問 報 告 書

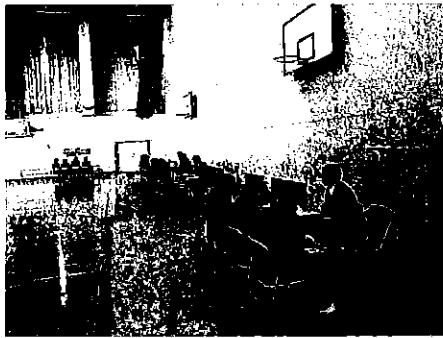
訪問学校名	三重県立 三重水産高等学校		
訪問年月日	令和2年1月15日(水)		
訪 問 者 (氏名・社名・役職 ・別紙添付も可)	東海支部 松浦一夫(幸福船舶㈱) 仲野仁太(東海タンカー㈱) 尾藤 功 岡山大輔(徳栄海運㈱) 仲野仁太(東海タンカー㈱) 高橋道男(東海支部事務局長)		
学校側面談者 (氏名・役職)	佐々木智史進路指導主事ほか		
実施事項(○印)	○(1)生徒全体説明 (2)学校側懇談 (3)個別就職相談 (4)懇親会		
懇談・意見交換概要(別紙添付も可)			
<p>昨年度から中部運輸局が主催する「船員就業セミナーin志摩(地元海運関係企業説明会)」に合わせ内航タンカー海運組合から地元管内所在の上記の3社が参加し、内タンとしての訪問活動を実施した。</p> <p>対象者は、同校 本科1年生38名、専攻科(漁業科1年3名、機関科1年3名)(漁業科2年3名、機関科2年3名)計50名が参加した。</p> <p>参加企業は、貨物船、タグ船、旅客船、タンカー船の船種の中から、各3社ずつ企業ブース設置し、各船種別のブースに生徒たちが5～6名のグループに分かれ、順番に各海運企業のブースを回り説明を受ける形で実施された。</p> <p>内タン3社のブースにおいては、内タン作成のパンフレットを生徒たちに配布の上、タンカー船員の仕事内容、内航船での必要な海技資格の種類等の、説明を行った。</p> <p>又、生徒たちからはタンカーの荷役作業、平水船、沿海船の勤務体系の違い、船員と陸上勤務との給料面の違いなどの質問があり、色々な形態の船舶、船員生活等について説明を行った。</p>			
訪問時の 求人数	(人)	訪問経費 (内タンへの請求金額 ・領収書添付)	(円)

生徒からの質問の中には、陸上での給与と海上勤務でのどのくらいの差があるのか、船員の勤務は3ヵ月乗船、1ヵ月休暇のとおりか、海技免状は、最低何級まで取っていればよいのか等踏み込んだ質問があった。

また、当支部に所属している会社のタンカー船は平水区域が主で、勤務時間は一定していないが、殆ど日帰りができるなど、給料も陸上と較べるとよい方との話に興味があり、セミナー終了後も個人的に平水船の乗組船員について詳しく聞きにくる生徒たちもいた。

本セミナーについては、当日の夕方 NHK のローカルニュースにも取り上げられた。

生徒たちのインタビューの内容で、今まで知らなかった海運のことについてもよくわかり今後の就職活動の参考にしたいと話していた。



タンカー船の仕事等の説明に聞き入る生徒達

訪問時の 求人数	(人)	訪問経費 (内タンへの請求金額 ・領収書添付)	
-------------	-----	-------------------------------	--

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	滑川高等学校		
訪問年月日	令和 1年 6月26日		
訪 問 者 (氏名・社名・役職 ・別紙添付も可)	北雅之 (日新船舶㈱) 松波道男 (㈱辰巳商会) 木下一也 (鶴見サンマリン㈱) 吉田英亮 ((昭和日タンマリタイム㈱) 牧川正起・中村全志 (知多港運㈱) 山口孝次 (本部事務局) 上村良 (事務局)		
学校側面談者 (氏名・役職)	新鞍先生 (海洋科 主任)		
実施事項 (○印)	○(1)生徒全体説明 ○(2)学校側懇談 (3)個別就職相談 (4)懇親会		
懇談・意見交換概要 (別紙添付も可)			
<p>新鞍先生に挨拶の後、出前授業を実施。 出前授業の後、新鞍先生と情報交換。</p> <p>出前授業については、1年生40名が対象であったため、船の初歩的なことも理解が浅いという前提で、内タン作成のDVD視聴の後、昭和日タンマリタイム㈱吉田氏が、内航船ってなに?というタイトルで、同氏作成のパワーポイントを使い講演を行った。内航船が如何に重要であり、日本を支えているかということ。 内航船は環境にやさしい輸送機関であること。 航海士 (船長)、機関士を初め船員の仕事はどのようなものか。 荷役に関する仕事について、船員の魅力・船員になるには、どうすれば良いか等、それらの内容について 詳細に説明をして頂いた。</p>			
訪問時の 求人数	0 (人)	訪 問 経 費 (内タンへの請求金額 ・領収書添付)	(円)

◎滑川高校での説明風景



◎出前授業で、生徒からの質問はほぼないなかで、下記質問があった。

- ・ 金曜日の昼食はカレーですか？
海軍カレーのイメージあるようだった。
- ・ 乗船3か月で1か月休暇とあるが、3か月間の仕事内容は？
- ・ 船員になるためにどうすればいいのか。

◎出前授業終了後、先生と情報交換

- ・ 小型船（19トン）の実習が週4時間（海洋観測がメイン）
- ・ 2年生からコース別れ 工学（漁業）・食品・栽培の3コース
- ・ 船員に直ぐになるのは非常に難しい状況
- ・ 資格のあった先生の退職に伴い、小型船舶の免状資格も危うい状況で、指導教官の確保が難しい現状。
- ・ 本校卒業生が、東海大学に進学していて、今回教育実習に来るので、その生徒を何とか教員として採用できないか検討中。
- ・ 小型船舶操縦士とダイビングの資格のある先生の確保が必要。

以上のような話がなされた。

以上

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	福井県立 若狭高等学校		
訪問年月日	令和 1年 7月18日		
訪 問 者 (氏名・社名・役職 ・別紙添付も可)	夏本清和 (㈲オリエントシップ) 武田勝博 (日栄タンカー㈱) 斉藤雄一 (大光船舶㈱) 高道秀次 (㈱三洋海運商会) 木村美幸・八木理恵子 (木村海運㈱) 本多昭博 (国華産業㈱) 野呂裕司 (㈱エスワイプロモーション) 牧川正起 (知多港運㈱) 辰巳幸寛 (㈱六青和 SHIPPING) 上村良 (関西・栗槽船支部 事務局)		
学校側面談者 (氏名・役職)	福嶋校長 毛利先生		
実施事項 (○印)	○(1)生徒全体説明 ○(2)学校側懇談 (3)個別就職相談 (4)懇親会		
懇談・意見交換概要 (別紙添付も可)			
懇談・出前授業内容は、別添。			
訪問時の 求人数	(人)	訪問経費 (内タンへの請求金額 ・領収書添付)	(円)

◎先生との懇談

福嶋校長、毛利先生と懇談



先生との懇談では、小型船舶しか取得できない環境での就職先に危惧している。補習でもして、何とか海技免状の勉強をさせて取得させたいので、積極的な求人をとの事。

◎生徒への出前授業 全体授業

同校 海洋科学科2年生14名 3年生2名 保護者1名に対し、パワーポイントを活用し、タンカー船員の仕事・休暇体制・仕内容・労働環境等について説明





◎グループトークング

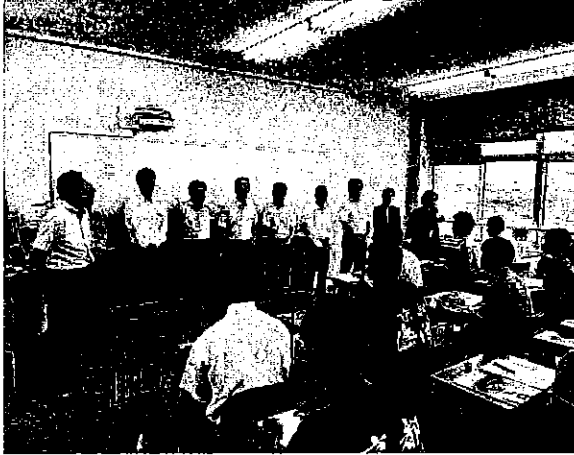
3グループでグループトークングを実施。



学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	京都府立 京都海洋高等学校		
訪問年月日	令和 1年 7月 17日		
訪 問 者 (氏名・社名・役職 ・別紙添付も可)	夏本清和 (㈲オリエントシップ) 武田勝博 (日栄タンカー㈱) 齊藤雄一 (大光船舶㈱) 高道秀次 (㈲三洋海運商会) 木村美幸・八木理恵子 (木村海運㈱) 本多昭博 (国華産業㈱) 野呂裕司 (㈲エスワイプロモーション) 牧川正起 (知多港運㈱) 辰巳幸寛 (㈲六青和 SHIPPING) 上村良 (関西・薬槽船支部 事務局)		
学校側面談者 (氏名・役職)	高木先生 伊藤先生		
実施事項 (○印)	○(1)生徒全体説明 (2)学校側懇談 (3)個別就職相談 (4)懇親会		
懇談・意見交換概要 (別紙添付も可)			
懇談・出前授業内容は、別添。			
訪問時の 求人数	0 (人)		(円)

◎生徒への出前授業 全体授業

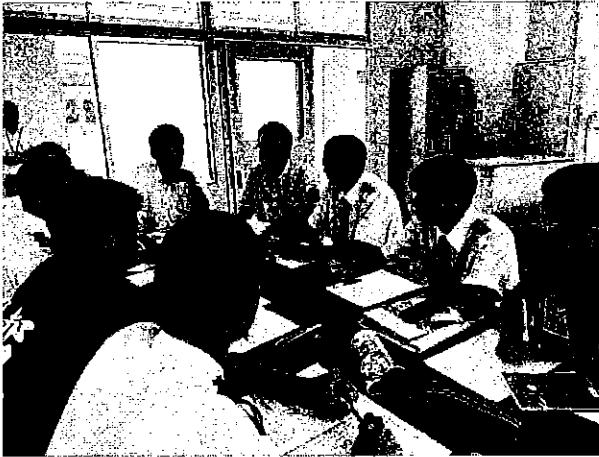


2年生17名に対し、内タン作成のDVD・パワーポイントにて
出前授業を実施。

タンカー船員の仕事・休暇体制・仕事内容・労働環境などについて説明。

◎グループトークング

3グループに分かれ、グループトークングを実施。



学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	兵庫県立 香住高等学校		
訪問年月日	令和 1年 5月27日 (月)		
訪 問 者 (氏名・社名・役職 ・別紙添付も可)	夏本 清和 (㈲オリエントシップ) 武田 勝博 (日栄タンカー㈱) 森廣 聡之 (アスト㈱) 井上 竜輔 (井上船舶㈱) 上村 良 (関西・薬槽船支部)		
学校側面談者 (氏名・役職)	森澄先生		
実施事項 (○印)	○(1)生徒全体説明 (2)学校側懇談 (3)個別就職相談 (4)懇親会		
懇談・意見交換概要 (別紙添付も可)			
<p>今回の学校訪問は、学校側からの要請により実施。</p> <p>オーシャンコース3年生14名 アクアコース 5名 内航船希望 3名 漁船希望 4名 港湾作業 1名 作業船 1名 養殖関係 4名 未定 6名</p> <p>報告内容については別添</p>			
訪問時の 求人数	0 (人)	訪問経費 (内タンへの請求金額 ・領収書添付)	(円)

◎DVDの視聴による説明

13:25~14:15

内タン作成のDVD視聴の後、パンフレットをもとに詳細の説明を実施。



内航船の海技資格について

休暇体制について

船内生活環境について

等などの説明を実施。

13:25~15:15 教室で、生徒とフリーターキング方式で
オーシャンコース 2グループ
アクアコース 1グループ



- ・タンカー乗組員と他の船舶乗組員との給料面での違い
- ・内航船での必要な海技資格の種類及びその他の資格
- ・求人票の見方、注意点
- ・在学中にとれる資格について極力取っておくように
- ・ケミカル製品が様々な用途に使用されており、需要が安定している。
- ・取引先が化学品メーカー等、大手が多いため、会社として安心感が持てる。
- ・タンク洗浄は機械で行うため、安全対策をしっかりしていれば怖がる必要はない。
- ・ケミカルタンカーは危険物への知識や経験が求められる分、給与が高く、経験を積んでいけばより高い技術が身につく。

等について意見、質問があり、各説明を行った。

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	浜田水産高等高校		
訪問年月日	令和 1年11月11日		
訪 問 者 (氏名・社名・役職 ・別紙添付も可)	川橋利明 (甲子汽船(有)) 斎藤雄一 (大光船舶(株)) 桐山和弘・及川正文・沖元勝典船長 (上野トランステック株) 本多昭博 (国華産業(株)) 辰巳幸寛 (株六青和 SHIPPING) 新井裕也 (英雄海運(株)) 上村 良 (関西・薬槽船支部)		
学校側面談者 (氏名・役職)	山本先生 進路指導部 主事		
実施事項 (○印)	○(1)生徒全体説明 ○ (2)学校側懇談 (3)個別就職相談 (4)懇親会		
懇談・意見交換概要 (別紙添付も可)			
先生との懇談及び出前授業別添添付			
先生との懇談 12 : 45～13 : 10			
出前授業 13 : 15～15 : 30			
訪問時の 求人数	0 (人)	訪 問 経 費 (内タンへの請求金額 ・領収書添付)	(円)

◎先生との懇談

山本先生（進路指導主事）と懇談

過去5年間の 本校、専攻科・本科生との進路状況等詳細に説明願った。

○平成30年度の専攻科・本科の海上進路状況は、

本科・・・漁船1名 タグ1名 港湾荷役関係1名 海洋土木関係 2名

専攻科・・・海上保安庁1名 内航タンカー1名 内航貨物2名 外航貨物2名

タグ1名 石油備蓄基地1名

以上の進路状況

本年度希望は、タンカー専攻科1名 セメントタンカー本科2名専攻科1名

RORO 専攻科2名本科1名 タグ本科専攻科とも2名

漁船 本科1名

本年度は、本科から専攻科希望者が多い、10名定員の所12名が希望している。

練習船などスペースの問題など12名可能であればすべて受け入れる方向で検討中との事であった。

専攻科の就職については、専攻科の担任の人脈を通じての就職が多いため、その年によって違いが生ずる。



◎浜田水産高校の出前授業

本科 1年生 8名 2年生 5名

内タン作成のDVDより、説明。

斉藤氏より、船員になるための内容について補足説明。

又、上野トランステック(株) 沖元船長(浜田水産卒業生)より、船内環境等について

説明 ①乗下船について ②休暇について ③乗船中の休みなどについて

④船内コミュニケーションについて ⑤どのような人材が欲しいか 等々について

船員としての現在の状況について、また風通しの良い船員間の関係等

実態に即した船内環境などについて講和願った。

◎浜田水産高校の全体説明風景



グループトークキング風景

全体説明の後、本科2年生5名と1年生8名の2グループで実施



グループ別の質問内容について

Q 休暇乗船のサイクルは？→ 3ヶ月乗船1か月休暇が基本

Q 内航船員の魅力は？→ 給与・休暇・食事

給与 同年代の陸上と比べてアバウト1,5倍くらい

休暇 毎週陸上に上がれないが、長期休暇になる。

食事 会社負担で、3食ついてくる。

ある会社の 3食の写真を披露。

Q WIFI 環境を含むインターネット環境はどうですか？

Q ケミカル船に乗るには何が必要ですか？

上記のような質問が出され、各グループで、それぞれ回答がなされていた。

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	島根県立 隠岐水産高等学校		
訪問年月日	令和 1年 5月 8日		
訪 問 者 (氏名・社名・役職 ・別紙添付も可)	北雅之 (田渕海運㈱) 宮津 昌伸 (イイノガストランスポート㈱) 木村美幸 (木村海運㈱) 野間司 (㈱エスワイプロモーション) 上村 良 (関西・薬槽船支部)		
学校側面談者 (氏名・役職)	酒井校長 梶野先生 池田先生		
実施事項 (○印)	○(1)生徒全体説明 (2)学校側懇談 (3)個別就職相談(4)懇親会		
懇談・意見交換概要 (別紙添付も可)			
懇談・出前授業内容は、別添。			
訪問時の 求人数	0 (人)	訪問経費 (内タンへの請求金額 ・領収書添付)	(円)

◎出前授業

就職ジョブフェアに参加する形で実施、
参加会社 隠岐汽船(株) 新日本海フェリー(株) 内海曳船(株)
宇部興産海運(株) 海上保安庁 内航タンカー海運組合
内航タンカー海運組合として
全学年対象に実施

8:50~9:00	全体説明
9:05~9:35	2年生テクノコース
9:40~10:10	2年生機関コース
10:20~10:50	3年生テクノコース
10:55~11:25	3年生機関コース
11:30~12:00	1年生(半数)
12:10~12:40	1年生(半数)

◎隠岐水産高等学校全体説明風景



◎2年生・3年生のついては、

- ・企業が求める船員像
- ・学生時代に身につけること
- ・船会社の状況
- ・過去5年間の採用と定着率について

以上の内容を中心に説明願いたい旨学校からの要望に沿い、説明を実施。
グループ分けをして、詳細に説明。





◎1年生については、
現行コース分けをされていないことから、内タン作成のDVDを用いて、タンカー船員の実情等を説明。



全体の質問内容等について

Q船員の給与について？

Q船員の休暇体制について？

Q福利厚生（WIFI環境等）について

Q求められる人材について（挨拶・時間厳守等）

Q長時間労働・長期乗船等ブラックなことはあるのか？

Qパワハラ・ほかのハラスメント対策はされているのか。

Q乗船中の休みについて（船種別の仮バースの有無等）

上記のような質問が出され、各グループで、それぞれ回答がなされていた。

以上

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	山口県立大津緑洋高等学校
訪問年月日	令和元年 11 月 21 日 (木) 13:30~15:10
訪問者	松本 (松盛汽船)、本多 (国華産業)、中林 (西部支部事務局長)
学校側	松本副校長、中澤教頭、高田主任、来島教諭、石本教諭、濱砂教諭
実施事項	① 先生との意見交換 ② 生徒出前授業 (2年生 23名 (女子1名))
懇談・意見交換概要	
先生との意見交換概要	
○学校の現況説明 (求人状況、進路状況等)	
<ul style="list-style-type: none"> ・本校は水産高校でありほとんどの卒業生は漁業関係の会社に就職している。 ・入学者は地元の漁業関係者が多数を占めているおり、今まで水産関係の会社を主に紹介していた。 ・昨年のタンカー業界の話聞いて先生方の中には海運会社関係の就職を斡旋するようになった。 ・昨年タンカーの概況や海運界の現況説明を聞いた生徒が興味を抱き、海運関係の問合せや就職希望者が増えている。 	
○内航タンカーの現況を資料説明	
<ul style="list-style-type: none"> ・内航タンカー海運組合の概況及び内航タンカーの現況を説明 	
生徒との出前授業、意見交換概要	
○訪問の趣旨を説明し続いて、内航タンカーのPR用DVDを視聴させた。	
次に、内航タンカーの役割、活動、設備等パンフレットを参考に説明した。	
○生徒との質疑応答 ・タンカーでの仕事内容について詳しく？ 石油業界の現状説明し、入出港時の作業状況、航海中の当直体制、荷役作業の手順・立ち合い作業の状況を説明し、貨物船との作業の違いがあるが、危険物を取り扱うので厳しい仕事となるが、タンカー船での仕事のやりがい、苦労の後の達成感が大きいことを強調した。	
<ul style="list-style-type: none"> ・船内での生活は拘束されているようだが楽しみはあるのか？ 船内はテレビ、WiFiが受信できる等の機器が充実しており航海中も娯楽を楽しむことができるので心配する必要はないこと。 ・給料はどのくらいか？ 陸上の会社に比べて給料が多い。会社で異なるが年間約3~400万円位で、それに作業等の手当が支給されるので同年代の者と比べると余裕のある生活が出来る。船内居住で衣食住の心配はなく、長く乗船すればするほど高額な貯金出来る利点がある。 ・休みはおおいいのか？ 3ヶ月乗船で1か月の休暇がある。学校での夏休みと同じで、毎年、長期の旅行など計画して短期では行うことができない夢のある休日を楽しめる。 ・学生の時に取るべき免許はあるのか？ 学生時代は生活を楽しむこと。危険物を運搬しているので就職してから勉強することが多くあるが心配することはない。それも会社が費用を負担する。 ・女性の船員は多いのか？ 最近は各社とも女性船員の獲得に力を入れており、船内の設備も風呂、トイレ、洗濯機を女性専用とするよう考えている。船の大きさにもよるが、既存船の改造、新造船の時に女性船員を雇用できるように設計している。女性だけが乗船するタンカーもある。 	
○船社からの意見	
<ul style="list-style-type: none"> ・3年生になると就職活動になるが、事前の会社訪問や疑問・質問があれば積極的に問い合わせることが大事だ。 	

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	香川県立 多度津高等学校		
訪問年月日	令和 1年11月 7日		
訪 問 者 (氏名・社名・役職 ・別紙添付も可)	笹木重雄 (東幸海運㈱) 横田之雄 (横田海運㈱) 萩野靖也 (二共海運㈱) 市川久哉 (イイノガストランスポート㈱) 丹羽耕一郎 (丹羽汽船㈱) 本多昭博 (国華産業㈱) 及川正文 (上野トランステック㈱) 峯 高光 (八幡浜商船㈱) 上村 良 (関西・葉槽船支部)		
学校側面談者 (氏名・役職)	村上先生 新田先生 村松先生		
実施事項 (○印)	○(1)生徒全体説明 ○(2)学校側懇談 (3)個別就職相談 (4)懇親会		
懇談・意見交換概要 (別紙添付も可)			
出前授業・懇談内容は、別添。 出前授業 12:30~14:00 先生との懇談 14:10~15:00			
訪問時の 求人数	0 (人)	訪問経費 (内タンへの請求金額 ・領収書添付)	(円)

◎出前授業

海洋技術科 2年生 28名 専攻科 1年生10名

内タン作成のDVDより、説明。

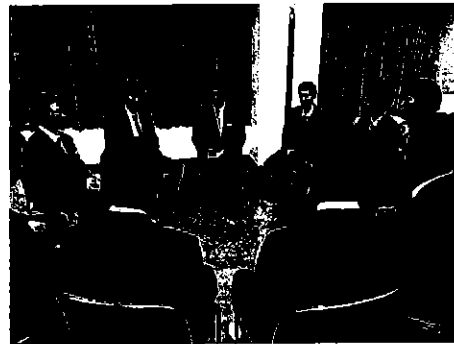
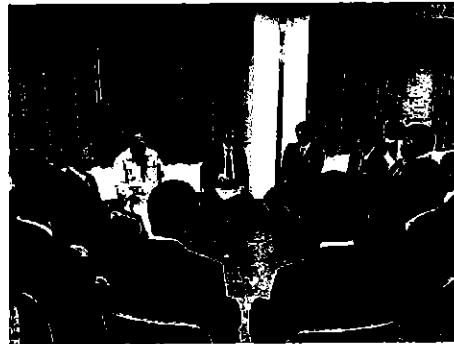
また、笹木氏より、船員になるための内容について補足説明。

◎多度津高等学校の全体説明風景



◎グループトークキング風景

全体説明の後、専攻科と本科3グループの4グループで実施



グループ別の質問内容について

- Q 休暇乗船のサイクルは？
- Q 乗船中の怪我や病気の対応は？
- Q 給与手取り額は？（休暇中はどのようになるの？）
- Q 乗組員の年齢構成などは？
- Q 船内休暇はありますか？
- Q 入社までに身に付けておいた方がよい資格は？
- Q 危険物の資格は必要ですか？
- Q 仕事のやりがいは？
- Q WIFI 環境を含むインターネット環境はどうですか？
- Q 私物の船内持ち込み制限はありますか？
- Q 会社の寮やマンションはありますか？
- Q 通勤可能な船舶は？
- Q 乗下船場所って決まっていますか？
- Q 船内にリクリエーション設備はありますか？
- Q 日本国籍でないものも内航船に乗れますか？（外国籍の生徒がいた）
- Q 冠婚葬祭で下船できますか？
- Q 風呂の水は海水ですか？
- Q ケミカル船に乗るには何が必要ですか？

上記のような質問が出され、各グループで、それぞれ回答がなされていた。

◎先生との懇談

村上先生・新田先生・村松先生と懇談



本校、専攻科・本科生との進路状況等詳細を確認。

○本年度の進路状況

本科航海 14名・・・内航 タンカー3名フェリー1名専攻科希望3名その他陸上
機関 13名・・・内航 フェリー1名専攻科希望1名 その他陸上
専攻科 航海5名・・・タンカー2名 RORO1名タグ1名旅客船1名
機関4名・・・フェリー2名タグ1名調査船1名

以上の進路状況

船員以外では、造船所・機械メーカー・香川県内の就職

○学生の考え方などはどうですか？

水産科の定員は、30名 それに対し、定員割れが無い状況

船の事を知らない生徒が多い。乗船実習が2年生の3学期に実施

実習終了後から理解してきて、船員希望者が増える。

インターンシップ制度は、生徒とマッチングすればその船に乗りたがる傾向。

宇和島海事イベント「海運・船・船員について知ろう！」結果報告書

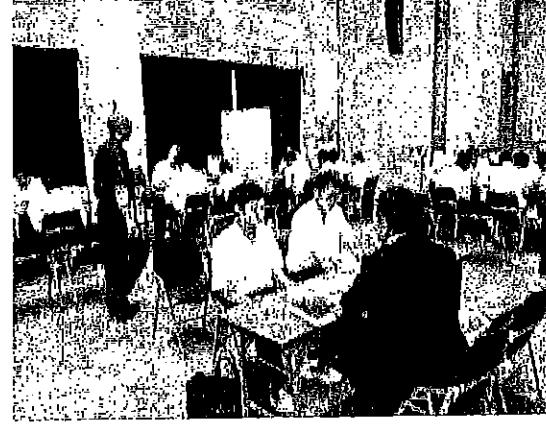
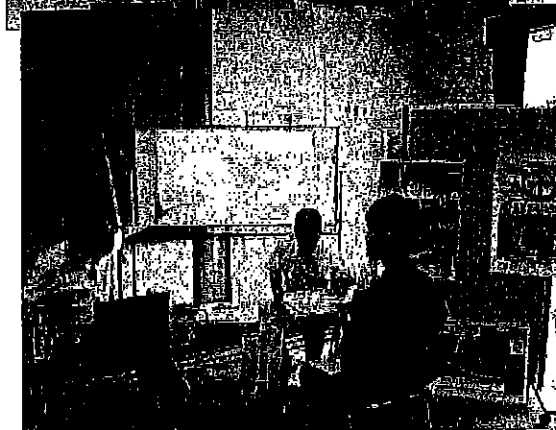
内タン四国支部 事務局長 (松原)

開催日	令和元年6月29日(土) 10時30分～14:00															
開催場所	宇和島市総合福祉センター 4階ホール															
開催目的	小中高生等に色々の海運・船・船員及びそれらの事業者について知ってもらおう。															
対象者	県内の小中高生、海運や船員に興味がある者															
参加事業者	県内の内航海運事業者(別紙 チラシ裏面) 内タン12社、全内船6社、愛媛地区2社 フェリー事業者2社、 宇和島水産高等学校															
関係者	主催/愛媛内航海運組合連合会 (愛媛地方内航船員対策連絡協議会) 共催/宇和島水産高等学校															
内タン本部への連絡事項	愛媛船対協が主催者となり、3団体共同の大がかりな行事となった。内タンから12社が参加したイベントとなり、7月10日に開催された内タン四国支部評議員会では後付けではあるが内タン学校訪問を兼ねた行事であるとの評価があり、例年実施している学校訪問を本年は行わないこととなった。															
イベント等	<p>6月29日、愛媛地方内航船員対策連絡協議会主催による宇和島海事イベントを宇和島市総合福祉センターで開催した。参加事業者は内タン四国支部から12社、全内船四国支部から6社、愛媛地区海運組合から2社、旅客船事業者2社及び宇和島水産高校の計23者で、開会式を終えるとすぐに、始まるのを待っていた市内の中学生5名をはじめ、宇和島水高生は2～3名ずつ一組で、各事業者のブースを3～5カ所回り日頃の疑問等について個別の説明を受けた。なお、宇和島水高では昨年、西日本豪雨の影響により中止となったこのイベントの代替行事として11月に学校内で実施した、ブース方式の内航海運説明会を一度体験した生徒も多くスムーズにこの行事への参加ができ、更により経験が積めたようである。また、閉会式で挨拶をしていただいた先生から次年度以降の開催に期待しているとの発言もあり、この行事が今後宇和島に定着し、内航海運業界が目指している若年船員の雇用の拡大に役立つイベントになることを願っている。</p> <p>参加学生</p> <table> <tr> <td>本科(海洋技術科)</td> <td>1年生</td> <td>19名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2年生</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3年生</td> <td>14名</td> </tr> <tr> <td>専攻科</td> <td>1年生</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2年生</td> <td>10名</td> </tr> </table>	本科(海洋技術科)	1年生	19名		2年生	14名		3年生	14名	専攻科	1年生	10名		2年生	10名
本科(海洋技術科)	1年生	19名														
	2年生	14名														
	3年生	14名														
専攻科	1年生	10名														
	2年生	10名														

合計 67名

市内の中学生 5名
水高の父兄 3名
一般（船員） 1名
その他

訪問時の 求人数	海上求人 一 陸上友人 一	訪問経費	
-------------	------------------	------	--



宇和島海事イベントの参加事業者

	事業者名	所在地	所属	対応人数
①	山本汽船(株)	松山市	内タニ四国支部	2
②	喜福汽船(有)		愛媛地区	取りやめ
③	進宏海運(株)	今治市波方町	全内船四国支部	1
④	東汽船(株)	今治市	内タニ四国支部	1
⑤	日本ガスライン(株)	松山市	愛媛地区	2
⑥	東洋商船(株)		全内船四国支部	2
⑦	興栄海運(株)	松山市	内タニ四国支部	1
⑧	青野海運(株)	新居浜市	愛媛地区	2
⑨	宮崎海運(株)	今治市波方町	内タニ四国支部	3
⑩	浅川汽船(株)	今治市	内タニ四国支部	3
⑪	鷹羽海運(有)		全内船四国支部	2
⑫	金力汽船(株)	今治市伯方町	内タニ四国支部	2
⑬	藤井綱海運(株)		内タニ四国支部	1
⑭	如月汽船(株)		内タニ四国支部	1
⑮	三ツ浜汽船(株)	松山市	内タニ四国支部	5
⑯	三鳳汽船(株)		内タニ四国支部	2
⑰	朝日海運(株)	今治市波方町	全内船四国支部	3
⑱	住鯨物流(株)	新居浜市	愛媛地区	2
⑲	大西海運(株)	松山市	内タニ四国支部	1
⑳	明神海運(株)	松山市	内タニ四国支部	2
㉑	八幡浜商船(株)		内タニ四国支部	取りやめ
㉒	恒見海運(株)		全内船四国支部	1
㉓	宇和島運輸(株)	宇和島市	旅客船協会	3
㉔	石崎汽船(株)	松山市	旅客船協会	2
㉕	宇和島水産高等学校	宇和島市	実習船	多数
愛媛地方内航船員対策連絡協議会 事務局(松原、渡部、稿本)				

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	高知県立 高知海洋高等学校		
訪問年月日	令和 1年12月18日		
訪 問 者 (氏名・社名・役職 ・別紙添付も可)	木村 美幸 (木村海運㈱) 白石 紗苗 (白石海運㈱) 竹駒 勇治 (昭和日タンマリタイム㈱) 本多 昭博 (国華産業㈱) 木下 一也・浅野 拓磨 (鶴見サンマリン㈱) 桐山 和広 (上野トランステック㈱) 宮政 彰 (浅川汽船㈱) 野間 司 (㈱エスワイプロモーション) 辰巳 幸寛 (㈱六青和 SHIPPING) 阿部 信之 (㈱霧島海運商会) 山口 孝次 (本部事務局) 上村 良 (関西・葉槽船支部)		
学校側面談者 (氏名・役職)	本田先生 柳本先生 竹中先生 山越先生 坂本先生 北添先生		
実施事項 (○印)	○(1)生徒全体説明 ○(2)学校側懇談(3)個別就職相談 (4)懇親会		
懇談・意見交換概要 (別紙添付も可)			
出前授業・懇談内容は、別添。			
訪問時の 求人数	0 (人)	訪問経費 (内タンへの請求金額 ・領収書添付)	(円)

◎出前授業

2年生	航海	11名	(航海6 マリン5)
	機関	12名	(機関6 海洋機器6)
	食品	8名	
	合計	31名	

○木村委員より、全体の説明及びどのような質問をしたらいいか等概略説明の後、参加各社による自己紹介を実施。

内タン作成のDVDより、説明。

◎出前授業の全体説明風景



◎グループトークの風景

3グループに分けグループトークを実施

○グループ1 (航海・機関船舶系 11名 (卒業時に5級))



○グループ2 (航海・機関マリン系12名 (卒業時に小型船舶))



○グループ3 (食品コース) 8名



◎グループ別の質問内容について

○船舶系11名 船員希望9名 漁船希望2名

- ・(生徒から) 高校卒業時に就職か、進学か迷っている。→本人次第だが、進学すればもっと就職先の選択肢が広がると思う。奨学金制度も活用するといいいのでは。
- ・(生徒から) 船員の仕事をされていて楽しいことは?→休暇が長いので、楽しみ。
- ・(生徒から) 仕事はしんどいのですか?→どのような仕事もしんどいと思う。
だからこそ、自分が責任を持ってできる仕事につくことをお勧めします。
- ・(生徒から) 大阪出身だけれども、大阪に勤めたいと考えているが、勤務地を大阪で、という希望はかなえてもらえるの?→船員という職業を選択した場合、どこに居住を構えても大丈夫です。
- ・(生徒から) 高校卒業後大学か、専攻科進学で悩んでいるのだけれども。→両方のメリットデメリットを先生と相談して決めてください。

○マリン系12名 船員希望2名 その他・・捕鯨船、食品加工会社等

- ・(生徒から) どの会社も3か月乗船の1ヶ月休暇ですか。→参加各社の休暇サイクルを伝えた。
- ・(生徒から) WIFIは使えますか?→物理的には使える。船に設置されているか等については、希望する船会社に確認をしてください。
- ・(生徒から) 司厨長の食事は、どのようなものでしょうか。→基本的に家庭料理です。食べたいものをリクエストすれば作ってくれる。買い出しのサイクルがあるものの、材料があれば対応してくれる。

○食品コース 8名

- ・(会社から) 卒業後就きたい仕事はあるの?→無言 あまり考えていない様子。
- ・(生徒から) 下船した後、体はずっと揺れているの?→なれるので問題なし。
- ・(生徒から) 体を鍛えるのが好きなのだから、トレーニング機材などはありますか?
→ほとんどありませんが、船内で鍛える方法はあると説明。

このコースは、質問が少なく意欲的でないように感じた。

仕事が一体どういうものなのかわかっていない等、イメージがわいていない状況で船員の仕事について何を質問したらいいのか、わからないのではないのかと感じた。

との感想を言われている船社があった。

◎先生との懇談

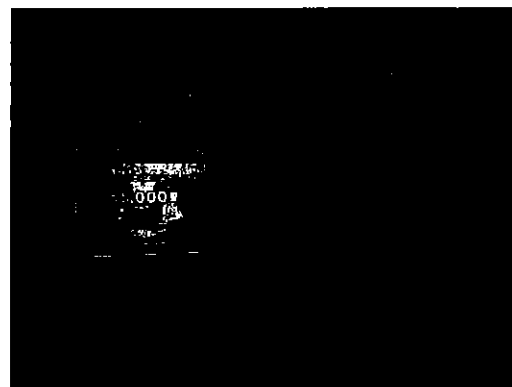
本田先生 柳本先生 竹中先生 山越先生 坂本先生 北添先生
と懇談を実施。

- ① 専攻科は、3級の養成だけど、2級を取得する子もいるが、ある会社から3級で十分2級はいらぬ。といわれたがそうなのか?との質問。
 - ・その仕事に対する本気度を見ているので、あまり資格にとらわれる必要はない、ただ、2級を目指したことは立派なことだと評価されるべきであると思う。
との回答有。
- ② 乗船実習は夏休みとか子供の都合の良いときにあわせることは可能か?
 - ・船の部屋がすくないので、先生と一緒に乗船は厳しい。
 - ・船は不定期航路なので、乗船地が大阪で下船地が北海道ということもある、交通費など諸経費が掛かるし、日数もかかるが大丈夫かが心配される。
 - ・インターンシップについて四国運輸局の対応はどうなっているのか?
- ③ 求人票について
 - ・学校訪問時に求人票が出ていないので、求人票をお願いしたいと学校側から言われるのですが。
求人票を出すにはいろいろな煩雑な作業を要するので、できれば学校側から生徒さんたちの就職意欲情報など、頂ければ対応可能。
- ④ 船の見学会について
 - 現実の船を見学いただければ生徒さんも実感がわくのではと考えるので、連絡いただければ対応可能。
 - しかし、タンカーは不定期航路だし、積み荷状態での見学は厳しいので、なるべく事前に要請願いた。
 - 船の体験をするには・・・
 - ・インターンシップで実感する方法
 - ・オペレーターなどに船の見学要請をして見学する方法
 - ・エスワイプロモーションが実施しているような船の見学会に参加する方法
 - 以上のような体験ができる。
 - 等々の情報交換を実施した。

以上

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	大分県立海洋科学高等学校
訪問年月日	令和2年2月6日(木) 10:00~12:30
訪問者	松本(松盛)、岩永(浜崎)、栗林(デュカム)、阿部(霧島)、庭瀬(明神)、辰巳(六青和)、山田(明和)、志賀(中央)、中林(西部支部)
学校側	井餘田進路指導主任、堤主幹教諭、佐藤教諭
実施事項	1.先生との懇談 2.生徒との意見交換(2年生14名)
懇談・意見交換概要	
<p>◎先生との懇談概要(10:10~10:40)</p> <p>○学校の現況:パンフレットによる説明(入試状況、生徒数、求人・就職状況等)</p> <p>・入学試験等の状況:本校は40名の定員で、2年次に海洋(航海、機関)、食品コースに分かれる。例年海洋20名、食品20名の希望となる。各コースは本人が決める。今2年生は海洋24名(航海14名、機関10名)。本年は、本科17名卒で7名は船舶関係就職し、内2名がタンカー乗船した。7名が専攻科に進み3名がタンカーを希望している。最近では船舶希望が増える傾向にあり2年生の内5名がタンカーを希望している。離職者が3名いるが休暇について就職斡旋時と異なることが多く、サイクルを守る、若者と一緒に乗船させる方法を考えてほしい。一泊を伴うインターシップが出来ないか。女子で船に乗りたいとの希望が増えているので船内環境等を知りたい。</p> <p>・海技資格の状況:卒業時は5級筆記免除、4級筆記を取得で卒業後に口述を受験している。大学等の上級学校に進む者もいる。本校から専攻科に進む生徒は全員3級を取得している。</p> <p>・本校は1年6か月の乗船実習があり遠洋航海等での実習に力を入れている。</p> <p>○内航タンカーの現況:資料による説明(組合組織、船齢、船員の高齢化問題)</p> <p>・船社からは、若者に乗船希望が増えるように船内環境の改善や乗組員とのコミュニケーションの向上に研修等を行うなど力を注いでいることの説明がなされた。</p>	
<p>◎生徒との懇談概要(10:40~12:30) 2年生14名</p> <p>○事務局から訪問の趣旨説明</p> <p>・内航タンカーの役割、活動、設備等をDVDの視聴。</p> <p>・内航タンカーのパンフレットでの内航タンカーの現況説明。</p> <p>・タンカーでの仕事は覚えることが多く、荷役にも立ち会うこととなり拘束時間が多い。一人前になるには荷役の港が異なるし作業方法もいろいろとあるが一度覚えると後は楽になる。作業方法は決まり事で回数を重ねるごとに慣れてくる。入出港する各港湾の状況、航路等を覚えるのに大体3年は辛抱すること。</p>	



○出席各社の紹介

- ・各社からの自己紹介と会社説明

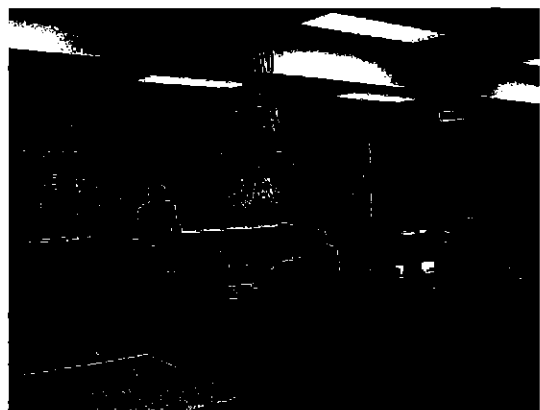
○生徒との質疑応答

・学校での取得すべき資格は？ 学校で学ぶもの以外は取得する必要はない。入社してから必要な資格等は会社の負担で取得できる。出来たら上級資格の筆記を取得するほうが就職してから有利になる。船舶無線を取得してほしい。

・タンカーの乗組員は給料が高いと聞いたが具体的に教えてほしい？ 会社にもよるが年収は約300万から400万円貰える。船長になれば一千万円以上になる。

・3か月乗船は長いけど短くならないのか？ 会社に長短の違いはある。船内居住の環境はよく、一人部屋で個人のプライベートは守られている。テレビが設置してありゲーム、ビデオ等個人の趣味も楽しめる。船内生活に慣れれば乗船中は給料を使うことなく下船時には貯金もできており計画的な長期旅行等楽しむことができる。最近では海外旅行を楽しむ若者が増えている。また、どこで下船しても旅費は会社もちで休暇中の給料は貰える。船内はWIFIも完備しており、船内居住も慣れれば楽しくなる。

- ・生徒に質問？ 給料が多い、休暇が多い、賄はないほうがいいについて、挙手による択一回答。
給料5名、休暇7名、賄2名の結果。



訪問時の求人 数	(人)	訪問経費 (内タンへの請求金額・ 領収書添付)	(円)
-------------	-----	-------------------------------	-----

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	熊本県立天草拓心高等学校（マリン校舎）
訪問年月日	令和2年1月23日（木）09:00～10:40
訪問者	及川（上野トランス）、本多（国華）、宗和（旭夕）、平野（昭和）、重信（日本ガス）、山口（本部）、中林（西部支部）
学校側	田畑副校長、藤井教諭、寺田教諭
実施事項	1.先生との懇談 2.生徒との説明（3年生3名、2年生18名、1年生20名(女子1名)計41名）
懇談・意見交換概要	
<p>◎先生との懇談概要（09:00～09:50）</p> <p>○学校の現況：パンフレットによる説明（入試状況、生徒数、求人・就職状況等）</p> <p>・入学試験等の状況：本校は20名の定員で、トロール漁業の実習を行っており全国で2隻のうち1隻。入学者は漁業を好む傾向にある。出身県別では長崎県・熊本県以外からの者も占めている。</p> <p>・海技資格の状況：本校は航海科のみで機関科は無い。卒業時は5・6級筆記試験免除で卒業後に口述を受験している。大学等の上級学校に進む者は約三割いる。学校として4級の海技免状の取得を格上げ要請している。</p> <p>・就職関係：本校は3か月の乗船実習があり東京、名古屋、関門方面への航海実習と東シナ海でのトロール漁業の実習、調査を行っている。大型漁船が減少していることから内航タンカー希望者が多い。</p> <p>・その他：本校の練習船は平成30年12月に竣工した新造船で総トン数は495トンと増トンしており、被災地での活動対応として主機関が停止してもモーターのみで航行が可能なハイブリッドシステムを導入し災害支援船として活動が可能。</p> <p>○内航タンカーの現況：資料による説明（組合組織、船齢、船員の高齢化問題）</p>	
<p>◎生徒との懇談概要（15:30～16:30）1、2年生59名</p> <p>○訪問の趣旨、内航タンカーの役割、活動、設備等（DVD、パンフレット）の説明</p> <p>・内航タンカーのDVDでの説明およびパンフレットでの現状説明</p> <p>・タンカーでの仕事は覚えることが多く、荷役にも立ち会うこととなり拘束時間が多い。一人前になるには荷役の港が異なるし作業方法もいろいろとあるが一度覚えると後は楽になる。作</p>	



業方法は決まり事で回数を重ねるごとに慣れてくる。入出港する各港湾の状況、航路等を覚えるのに大体3年は辛抱すること。

○出席各社の紹介

- ・各社からの自己紹介と会社説明



○生徒との質疑応答

・学校での取得すべき資格は？ 学校で学ぶもの以外は取得する必要はない。出来たら上級資格の筆記を取得するほうが就職してから有利になる。

・タンカーの乗組員は給料が高いと聞いたが？ 同年生で陸上就職するものの約2倍は貰える。また、危険物を運搬するので危険手当、作業手当が貰える。仕事は覚えるまでは多少辛いこともあるが、タンカー以外の船に異動する場合楽になる。

・3か月乗船は長いけど短くならないのか？ 会社に長短の違いはある。また、乗船した船によるが平水区域の船に乗ると日帰りもある。大型内航タンカーに乗船すると乗船中は給料を使うことなく下船時には貯金もできており計画的な旅行等楽しむことができる。最近は海外旅行を楽しむ若者が増えている。また、どこで下船しても旅費は会社もちで休暇中の給料は貰える。船内はWIFIも完備しており、船内居住も慣れれば楽しくなる。

訪問時の求人数	(人)	訪問経費 (内タンへの請求金額・ 領収書添付)	(円)
---------	-----	-------------------------------	-----

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	宮崎海洋高等学校
訪問年月日	令和元年6月11日(火) 13:00~14:30
訪問者	中村(昭和日タン)、中林(西部支部)
学校側	鍋倉校長、進路指導部前田教諭、田辺教諭
実施事項	①先生との懇談②生徒全体説明(3年生26名(女子6名))
懇談・意見交換概要	
先生との懇談概要(13:00~13:30)	
○今回は、キャリア教育「職業・進学体験授業」として	
目的: 1、産業現場における生の声を直接聞くことで、日頃学習している専門教科に対する興味・関心を深める。2、事故の職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択能力の育成や望ましい職業観・勤労観の確立を目指す。とのことで、会議室に企業、学校の担当者が集合した。	
○13:20~13:30に校長先生が挨拶をされ、その後各講座の生徒代表が講師を各部屋に案内した。	
○講座の割り振りは、水産業・海洋土木(生徒26名)、自衛隊(生徒3名)、漁業(生徒4名)、サービス業(生徒7名)、養殖業(生徒6名)、機械部品・造船製造業(生徒5名)、食品製造業(生徒4名)、小売・卸・販売業(生徒4名)、大学・専門学校(生徒5名)、調理師(生徒1名)での受講で、参加企業約50名、生徒65名が講座場所13カ所に分かれて講義が行われた。	
○内航タンカーの講義状況 13:35~14:25(3年生26名、内女子6名)	
<ul style="list-style-type: none"> ・内航タンカーのDVD及びパンフレットを使用しての説明 ・過去の質疑応答を具体的に紹介と説明 ・船社から会社説明と船内での生活、業務内容の具体的な説明 	
○生徒との懇談会での質疑応答	
<ul style="list-style-type: none"> ・内航タンカーは危険物を運んでいるが安全第一の仕事で作業は厳しいのか? 仕事は厳しい。しかし、最初から難しい仕事に取り組むことはない、2~3年で一人前になる。無理をせず少しずつレベルアップすればよい。 ・荷役に立ち会うと聞いたが? 立ち会いや点検作業を行う。これらの作業には手当がつく。 ・長時間勤務と聞いたが勤務時間は? 航海する時は当直を組んでおり通常は4時間当直で交代している。普通は合計すると8時間勤務である。乗船期間は普通3ヶ月で1ヶ月の休暇となる。航海そのものは2~3日で各港に着き、荷役は岸壁に着岸して行うので、荷役終了後、次の出航時間まで上陸できることもある。 ・女子は乗船できるのか? 最近は女子の船員が増えている。女子のみが乗船している船もある。希望するのであれば積極的に会社訪問や事前情報を入手すればよい。 	



学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	宮崎県立宮崎海洋高等学校
訪問年月日	令和2年2月18日(火) 14:00~15:30
訪問者	松本(松盛汽船)、栗林(デュカム)、及川(上野トランス)、中林(西部支部)
学校側	進路指導部長前田教諭、田辺教諭
実施事項	① 先生との懇談②生徒全体説明(1年生39名(内女子6名))
懇談・意見交換概要	
<p>先生との懇談概要(14:10~14:20)</p> <p>○当日は37社の企業等が参加した企業ガイダンスが計画されており、説明会の段取り等の打ち合わせのみで学校側の就職状況等の説明はなかった。</p> <p>○内航タンカーの企業説明状況 14:20~15:30(1年生39名、内女子6名) 生物実験室内。なお、当日は、保護者参観日で保護者18名の同席があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初に事務局から内航タンカーの現状、内航タンカーのDVD及びパンフレットを使用しての説明を行った。 ・続いて各船社から会社説明と船内での生活、業務内容の具体的な説明を行った。 ・船内ではコミュニケーションが大事。危険物の運搬船であるので安全管理に重点を置いて作業を行っている。船の大きさによるが部屋は個室、シャワートイレ付、テレビが設置してあるのでゲーム等ができ船内生活は若者も苦にならない。各船社が所有する船舶の具体的な船内生活の説明。 <p>○生徒との懇談会での質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給料はどのくらいか? 会社にもよるが月平均30万円くらい。また、作業の立ち会いや点検作業を行いプラスの手当がつく。 ・勤務時間は? 航海する時は当直を組んでおり通常は4時間当直で交代している。普通は合計すると8時間勤務である。乗船期間は普通3ヶ月で1ヶ月の休暇となる。休暇中も給料が支払われる。上下線時の旅費等は会社が負担する。航海そのものは2~3日で各港に着き、荷役は岸壁に着岸して行うので、荷役終了後、次の出航時間まで上陸できることもある。 ・女子は乗船できるのか? 最近は女子の船員が増えている。 <p>女子のみが乗船している船もある。個室でプライベート空間は確保してある。希望するのであれば積極的に会社訪問や事前情報を入手すればよい。生徒は、説明内容を記録するなど熱心であった。</p> <p>○最後に会社側からの質問</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給料が多いのと休暇が多いのと比べると給料が多いと答えた生徒が半数を超えた。 ・現在、船を希望する者は21名、本日の説明を聞いて、タンカー船を希望する者は15名、陸上希望は0名であった。 	
80	

学 校 訪 問 報 告 書

訪問学校名	鹿児島県立鹿児島水産高等学校
訪問年月日	令和元年12月5日(木) 10:30~15:40
訪問者	松本(松盛汽船)、桐山・及川(上野)、栗林(デュカム)、辰巳(六青和)、山田(明和)、栢井(国華)、多田(英雄)、木下・浅野(鶴見) 吉田(昭和)、阿部(霧島)、中林(西部支部)
学校側	中山進路指導主任、川添教諭、徳満教諭、前山教諭、田端教諭、古田教諭
実施事項	①先生との懇談②生徒全体説明(2年生24名、(女子2名)1年生32名(女子1名))
懇談・意見交換概要	
<p>生徒の出前授業概要(10:50~11:40) 2年生24人</p> <p>○訪問の趣旨説明</p> <p>○内航タンカーの役割、活動、設備等(DVD、パンフレット)について事務局からの説明及び、昭和日タンマリタイム吉田氏によるパワーポイントでの一般的な船乗りの説明。</p> <p>○出席各社の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各社から自己紹介と会社説明 <p>○生徒との懇談会での質疑応答</p> <ul style="list-style-type: none"> ・内航タンカーは危険物を運んでいるが学生で資格を取る必要があるか? <p>就職してから取得するので必要ない。最初から難しい仕事に取組むことはない、少しずつレベルアップすればよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荷役に立ち会うと聞いたが時間は長いのか? <p>船舶の大小で荷役ポンプ能力に差があり、また陸上側の受け入れ能力に違いがあるので一定しない。立ち会いや点検作業は全員で行うが手当がつく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長時間勤務と聞いたが勤務時間は? <p>航海する時は当直を組んでおり通常は4時間当直で交代している。普通は合計すると8時間勤務である。また、荷役は岸壁に着岸して行うので、荷役終了後、次の出航時間まで上陸できることもあるが、危険物荷役なので作業終了後は沖錨泊が多い。</p>	
<p>先生との意見交換会概要(11:50~12:40)、内タン就職内定(上野、国華)の3年生2名同席</p> <p>○内航タンカーの現況を資料による説明(現況、船齢、船員の高齢化等)</p> <p>○意見交換内容</p> <p>◎学校側</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職採用の条件、基準について?(各社応答) <p>小型タンカーの乗船が多いのでコミュニケーションが取れるか否か。</p> <p>学校で取得する資格の他は求めている。</p> <p>明るく、元気な性格を求める。また、乗船前にその指導を</p>	



行っている。

人の話を聞く力、会話での受け答えの能力が必要。

4級の資格は最低必要、上級の資格なら評価が高い。

学校での勉強は良く取り組んでいるが、船内で取り扱う簡単な工具の名称等の知識に欠ける。

・乗船実習で教習することはないか？

操船技術等必要だが、それ以外に船内でのヒヤリハットについて教えてほしい。タンカーは危険物の運搬なので危険を避けるための安全知識が必要である。

・水産高校卒業生に求めることは？

水産高校卒業生は純粋なので会社が育てるように心掛けて教育している。コミュニケーションにかけているのか、一人での食事、ほかの乗組員との外出を嫌う子も見受ける。

・女子の就職についてアドバイスを？

最近女子の就職が増加の傾向にある。女子は、積極性があるし、長い乗船も嫌がらない。男性の船員にはハラスメントにならないよう指導している。

船の大きさにもよる個室、トイレ、洗濯機は専用で不自由はない。また、女性船員のための船もあり希望者が増えている。

女子の採用については、結婚・出産と補充が必要なので採用を積極的に行っている。

◎船社側

・鹿児島高校の求人、進路状況等の説明がほしい？

進路状況は、最近漁業関係に増加傾向にあり、本日も漁業関係の2事業者がガイダンス訪問している。

就職希望40人、進学希望30人で、その内船舶希望10人で、本科生6人、専攻生2人タンカーを希望している。女子2名は客船と商船を希望している。

~~~~~

#### ●午後からの進路ガイダンス (13:45~15:35)

船社側を2ブース分け、生徒2年生24名を2班編成で前半20分、後半20分の入れ替え、2年生終了後は、船社側を1ブースに1年生32名を40分での出前授業形式とした。

#### ◎2年生ガイダンス (13:45~14:35)

#### ○質疑応答

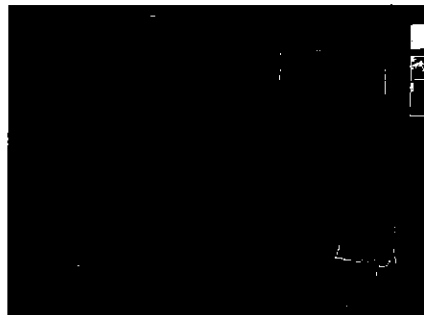
・3か月乗船1ヶ月休暇とあるが、2か月乗船はないのか？

会社にもよるが、基本的には3ヶ月乗船が普通である。これを長いとみるかどうかは個人の気持ちのありようで、本校卒の先輩は1ヶ月の休暇を利用して、運転免許を取る、日本一周、海外観光、英語の勉強塾、趣味を楽しむ等、計画的な休暇を過ごしている。

・給料が高いと聞くが如何ほど？

受取額は、月約40万円が多い。タンカー作業での手当が付く、乗船交代時の旅費は会社負担、また、乗船中は船内居住、食事つき、衣服は船内で決められた作業服着用で乗船中は衣食住の心配がなく、お金を使うことがないので下船時には高額の貯金が出来ている。陸上での就職組と比較すると倍ぐらいの収入となる。

・タンカー乗船の生きがいは？



タンカーに乗船すると危険物を運搬する関係から規則等守らなければならないことが多いが、例えばタンカー船から他の船に移動するときは仕事の内容が簡単な作業となるので楽である。

3年間タンカーに乗船すれば仕事に慣れて、船乗りはワンパターンの作業で陸上勤務と比べると楽である。

・本日説明を聞いてタンカー乗船を希望することにした。詳しいことを知りたいが？

先生を通じて会社の詳細をチェックする。また、各会社はホームページがあるので閲覧すること。

興味を持った会社は直接電話をして確認にするとよい。

◎1年生ガイダンス (14:45~15:25)

・内航タンカー事業について事務局からパンフレットを使用しての説明。

・昭和日タンマリタイム吉田氏からパワーポイントでの一般的な船乗りについて説明。



○船社側からの企業説明

・所属タンカーの現状及び会社の取り組み説明。

○生徒からの質問

・4級の筆記を持って卒業するが就職してから口述試験の日や上級の免状を取得するのに休暇は取れるのか？

問題ない。会社としては上級の免状を取得することに応援している。

・乗下船はどうなるのか？

会社からの指示で休暇の取得のために日本全国の港湾で乗下船する。その時の交通費等は会社が負担するので安心すること。

・女性の採用はあるのか？

最近増加しており船内環境は充実している。2人採用しているが1人は陸上勤務でアドバイザーとして活躍している。

|         |     |                           |     |
|---------|-----|---------------------------|-----|
| 訪問時の求人数 | (人) | 訪問経費<br>(内タンへの請求金額・領収書添付) | (円) |
|---------|-----|---------------------------|-----|

## 学 校 訪 問 報 告 書

|                            |                                                  |                               |     |
|----------------------------|--------------------------------------------------|-------------------------------|-----|
| 訪問学校名                      | 王寺工業高等学校                                         |                               |     |
| 訪問年月日                      | 令和 1年 6月 5日                                      |                               |     |
| 訪 問 者<br>(氏名・社名・役職・別紙添付も可) | 夏本清和 (㈱オリエントシップ) 武田勝博 (日栄タンカー㈱)<br>上村 良関西・薬槽船支部) |                               |     |
| 学校側面談者<br>(氏名・役職)          | 松本先生 進路指導部長                                      |                               |     |
| 実施事項 (○印)                  | ○(1)生徒全体説明 (2)学校側懇談 (3)個別就職相談 (4)懇親会             |                               |     |
| 懇談・意見交換概要 (別紙添付も可)         |                                                  |                               |     |
| 概要については、別添記載               |                                                  |                               |     |
| 訪問時の<br>求人数                | 0<br>(人)                                         | 訪問経費<br>(内タンへの請求金額<br>・領収書添付) | (円) |

同校 「いつでもナビ」で、内タンブース設置を要望され、参加。  
参加したところは、航空大学 近畿大学工業高専 調理短大 自動車短大  
日産の車の整備士養成専門学校、奈良仕事センター（県内就職紹介機関）等が参加。

内タンブースでは、内タン作成のDVDを常時流しながら、ブースに参加した生徒に対し、パンフレットを渡し、船員の仕事について説明。  
特にタンカーの船員になってもらいたいとアピールした。  
しかし、本校卒業をしてすぐに就職しても海技免状が無いので、就職が難しいことから、海技短大への進学を勧める方向での説明を実施。

当日の参加者は、機械コース 3名。（3年1名。2年2名。）  
個別対応で、説明を行い、質問などは、

Q 仕事内容はどうか、また、仕事はきついかな。

A 船員にしる、陸上の仕事にしる、どのような仕事でも慣れるまでは、きついと感じると思われる、船員の仕事内容については、タンカー船は、運航だけでなく荷役作業も仕事に含まれるので、少し厳しいかもしれない、その分給料がいいと説明。

Q 船員になるために必要な資格は。

A 船員に必要な資格はあるが、本校を卒業後、海技短大に行って取得するのが近道だとの説明。

以上

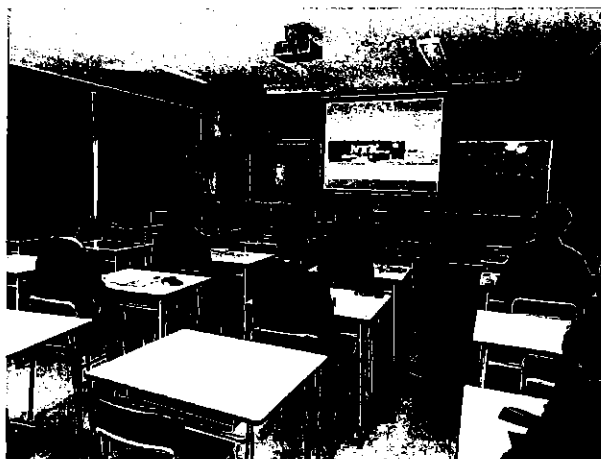


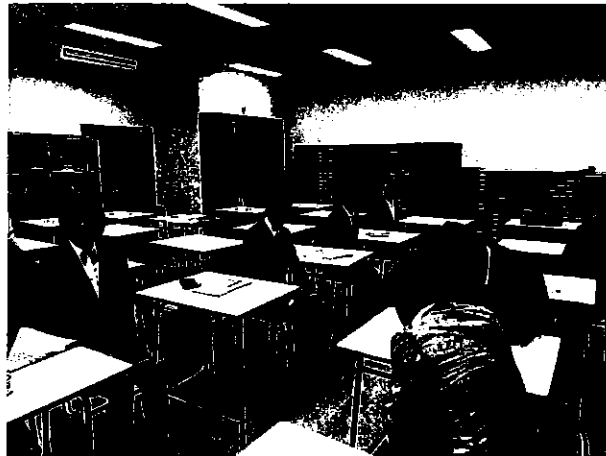
## 学 校 訪 問 報 告 書

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                    |                                  |     |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------|-----|
| 訪問学校名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 富山高等専門学校                                                                                                                                                                           |                                  |     |
| 訪問年月日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           | 令和 1年 6月 25日                                                                                                                                                                       |                                  |     |
| 訪 問 者<br>(氏名・社名・役職<br>・別紙添付も可)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  | 北雅之 (日新船舶(株)) 宮津昌伸 (イイノガストランスポート(株))<br>松波道男 (株辰巳商会) 木下一也 (鶴見サンマリン(株))<br>吉田英亮 ((昭和日タンマリタイム(株)) 新井裕也 (英雄海運(株))<br>牧川正起・中村全志 (知多港運(株)) 松澤立 (上野トランステック(株))<br>山口孝次 (本部事務局) 上村良 (事務局) |                                  |     |
| 学校側面談者<br>(氏名・役職)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 山本教授 (商船学科長) 笹谷教授 西井助教 山田助教                                                                                                                                                        |                                  |     |
| 実施事項 (○印)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       | ○(1)生徒全体説明 ○(2)学校側懇談 (3)個別就職相談<br>○(4)懇親会                                                                                                                                          |                                  |     |
| 懇談・意見交換概要 (別紙添付も可)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |                                                                                                                                                                                    |                                  |     |
| <p>笹谷教授 山本教授 西井助教授と情報交換を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商船学科は定員 40 名 (航海 20 名+機関 20 名)、4 学年は航海 21 名 (女子 7 名)、機関 17 名 (女子 2 名)。1 学年は全体で 41 名、内女子が 17 名で 41%を占める。</li> <li>・進学より就職が多い。<br/>(約 8 割 海上希望 (外航・内航大手・・・) 港湾関係)<br/>陸上では富山県内の大手会社 (機関の生徒が多い) が最近、10月入社を認め出して、より多くなっている傾向がある。</li> <li>・大手フェリー会社が、新 3 級の大学生を採用する傾向になったため、高等専門学校の生徒の採用が厳しい状況になってきている。そのような状況で内航に目を向けている生徒が増えてきている。</li> <li>・4 年生の中でインターンシップ希望があり、海上勤務希望者が多い<br/>特に女性が多いのだが、女性船員の実績などはどうかとの質問があった。</li> </ul> <p>出前授業の報告については、別添記載</p> <p>参加生徒 4 年生 4 名 (N 4 名うち女性 3 名)</p> <p>* 学校側が学年を問わず、自由参加としていたため参加者が極端に少なかった。<br/>次回は他の高専同様、学校側が正規授業として位置づけ参加者を確保できるよう事前調整を行う。</p> |                                                                                                                                                                                    |                                  |     |
| 訪問時の<br>求人数                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     | 0<br><br>(人)                                                                                                                                                                       | 訪 問 経 費<br>(内タンへの請求金額<br>・領収書添付) | (円) |



◎富山高等専門学校での説明風景





参加生徒が4名のため、DVD視聴の後、参加各社と対面で、質疑応答

生徒からの質問について

- ・船会社が求める人物像とは、
- ・内外航併用船の船員とはどのような体系なのか？
- ・内航船の船員の英語能力は、
- ・労働時間の時間外とはどのようなことなのか。
- ・当初船員採用で、結婚して子供ができたなら陸上勤務は可能でしょうか（女子）
- ・内航タンカーに女性が船員採用されたときに、その船の生活環境はどうなるのでしょうか
- ・平水船の労働時間や、労働条件は

参加各社より、それぞれの質問に対し、各社での対応について説明がなされた。

以上

## 学 校 訪 問 報 告 書

|                                                                                           |                                                                                                                                                                                           |                               |                   |
|-------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------|-------------------|
| 訪問学校名                                                                                     | 鳥羽商船高等専門学校                                                                                                                                                                                |                               |                   |
| 訪問年月日                                                                                     | 令和 1年 6月12日                                                                                                                                                                               |                               |                   |
| 訪 問 者<br>(氏名・社名・役職<br>・別紙添付も可)                                                            | 北雅之(日新船舶㈱) 宮津昌伸(イイノガストランスポート㈱)<br>松波道男(㈱辰巳商会) 久保田英輔・浅野拓磨(鶴見サンマリン㈱)<br>宗和孝明(旭タンカー㈱) 小川真由美・佐藤覚(コスモ海運㈱)<br>山田智昭(明和タンカー㈱) 竹駒勇治(昭和日タンマリタイム㈱)<br>三井誠(中央海運㈱) 新井裕也(英雄海運㈱)<br>山口孝次(本部事務局) 上村良(事務局) |                               |                   |
| 学校側面談者<br>(氏名・役職)                                                                         | 片岡教授          窪田教授                                                                                                                                                                        |                               |                   |
| 実施事項 (○印)                                                                                 | ○(1)生徒全体説明 ○(2)学校側懇談 (3)個別就職相談 (4)懇親会                                                                                                                                                     |                               |                   |
| 懇談・意見交換概要 (別紙添付も可)                                                                        |                                                                                                                                                                                           |                               |                   |
| <p>報告については、別添記載</p> <p>参加生徒    4年生 32名 (N 19名 E 13名)<br/>              5年生 5名 (希望者のみ)</p> |                                                                                                                                                                                           |                               |                   |
| 訪問時の<br>求人数                                                                               | 0<br><br>(人)                                                                                                                                                                              | 訪問経費<br>(内タンへの請求金額<br>・領収書添付) | 60,696<br><br>(円) |

◎鳥羽商船での説明風景



◎鳥羽商船グループトーク風景



## グループミーティングでの内容

Q 司厨長が居ない船はどのような船か。また食事はどうするのか？

A 500トン未満の船では司厨長が居ない船が多いが会社によって違う。  
居ない船では交代で作ったり、米だけ炊いておかずは自身で作る等、会社によって様々。

Q 外航と内航の給与は？

A やはり外航の方が高いが、門は狭い。

Q 船長、機関長の給与は？

A 会社によって違うが、陸上より良い。船のサイズ等によっても変わる。

Q タンカーで働くには陸上危険物の資格を在学中に取得する必要あるのか？

A タンカーでの危険物の資格は、危険物等取扱責任者の資格が必要。陸上の資格とは別にある。積荷により資格が分かれており、石油・化学・液化ガスとなっている。また、甲種と乙種に分かれており、乙種は乗船履歴、船上訓練で取得。一航一機以上は甲種が必要で、横須賀にある海上災害防止センターに行き消防講習を受講、乗船履歴で取得。実際に働きたし取得する資格となる。

Q 上陸はどの位の頻度で上陸できるか。また時間は？

A 陸上のように毎週土日が休みではないが、荷役がない時や仮バースに着岸した時が休みになる事もある。曜日、時間は様々。

Q 入社後、研修はあるのか。

A 会社によって様々だが、研修をしている会社は多いと思う。

Q 何も無い時間、何しているか。

A 部屋でテレビを見たり、自分の好きなことをしている。

Q 外航、内航の休暇のサイクルは？

A 外航は4カ月乗船、2カ月休暇が基本ベース 内航は3カ月乗船、1カ月休暇が基本ベースですが最近では2カ月乗船、1カ月弱休暇が増えてきています。  
船種によっていろいろな休暇サイクルがあります。

Q タンカーの荷役はどのような体制で行っているのか？

A タンカーの場合は乗組員全員協力して荷役作業を行っている。

積荷、揚荷共に船員が作業します。最近では自動化が進み楽にはなっております。

Q 女性船員の船内での対応（居住関係）はどうなっていますか？

A 部屋は男女関係なく全て個室になっており、女性船員が乗船している船では風呂などは時間を決めてわけていたり、大型船では風呂も二カ所あるので男女で分けています。

洗濯機は1つを女性専用としていたり、鍵が掛かるように対応しています。

最近では女性船員を雇用する会社も増えつつあります。

Q 航路はどのような航路を航海しますか？

A 北海道～沖縄まで日本全国行く可能性はありますが会社によって航路は違いますので問合せしてください。

Q 船内での休息（睡眠時間）はどれくらいですか？

A 4時間当直、8時間休息を1日2回取ります。場合によって休息が長くなったり短くなったりします。

入出港作業、荷役作業は全員でやりますのでその場合は時間帯次第で休息が短くなります。また夕方入港、翌日荷役などの場合は休息時間が長くなる場合があります。休息時間が短くなるという事時間外となり収入として返ってきます。

Q 原油輸送はしていますか。

Q 女子船員は採用していますか。

Q 入社するための資格は何が必要ですか

Q エンジンの出力は何 KW ですか

Q 何歳まで働けますか

Q 新卒から定年まで何%残りますか

Q 適性を判断する制度はありますか（船が嫌になったら陸上勤務もできますか

それぞれの質問に対し参加者から回答がなされた

各グループの内容は以上で、

新たに下記内容を、追加にて説明を行ったグループもあった。

・最近の船舶は、船内にWIFIが付いている船が多くなっている。考え方は様々だが、ゲーム、スマホ等でストレスを発散することもストレス解消法の一つ。但し、当直終了後、ゲーム等をしていて次の当直に遅れることは、あってはならない。当直は、乗組員

の命、貨物、会社の財産を預かっている。また、船員生活を楽しくするには、コミュニケーションと自ら進んで仕事を覚えていくこと。

- ・タンカーは不定期航路で色々な港に行くことが出来る。
- ・タンカーは産業活動の基礎となっており、内航タンカーが減り、貨物を運べなくなれば、皆さんの生活に大きく影響する。

### 鳥羽商船先生方と情報交換



#### 先生との情報交換内容

- ・航海の 19 名ほぼ海上勤務希望。機関の 13 名 7~8 割海上勤務希望
- ・まず大手外航船社が数名内定、次に内航大手、といった順に 受験していく (例年)
- ・インターンシップでは、5 日以上していただけると生徒達も単位の意単位として認められるので、できるのであれば 5 日以上の乗船お願いしたい。



- ・ 船内環境を重視する生徒が多い。
- ・ 3 か月程度でやめる生徒が多い、ミスマッチを極力避けたい。
- ・ 6 月神戸 8 月横浜にて高専ガイダンスを中学生（保護者）対象に実施予定。

以上

## 学 校 訪 問 報 告 書

|                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 訪問学校名                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 広島商船高等専門学校                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 訪問年月日                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      | 令和元年6月11日(火) 午後2時20分から午後3時50分                                                                                                                                                                                                                                                 |
| 訪問者<br>(氏名・社名・役職<br>・別紙添付も可)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               | 松澤立(上野トランステック海務部長) 木下一也(鶴見サンマリン船舶グループ部長) 山田洋平(鶴見サンマリン工務監督) 宗和孝明(旭タンカー船舶部船員チームリーダー) 山田智昭(明和海運社長室長) 新井裕也(英雄海運海務課長) 本多昭博(国華産業スーパーバイザー) 竹駒勇治(昭和日タンマリタイム船員グループマネージャー) 宮津昌伸(イノガストランスポート船員グループリーダー) 聖朋海運:小村吉秀(専務取締役) 田中太(海工務部グループリーダー) 松下翔(海工務部)。 山口孝次(内タン海工務部長) 力石正志(内タン中国支部) 以上14名 |
| 学校側面談者<br>(氏名・役職)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          | 副校長 水井真治 商船学科准教授 村岡秀和 商船学科 茶園敏文<br>以上3名                                                                                                                                                                                                                                       |
| 実施事項(○印)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | <input checked="" type="checkbox"/> ①生徒全体説明 <input checked="" type="checkbox"/> ②学校側懇談 <input type="checkbox"/> ③個別就職相談 <input type="checkbox"/> ④懇親会                                                                                                                         |
| 懇談・意見交換概要(別紙添付も可)                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| <p>商船学科4年生41名(内女性4名)、に山口海工務部長がDVDによる業界の説明。<br/>訪問各社と学生との質疑応答。</p> <p><u>質疑応答</u></p> <p>① パースは近い所に取れますか。 ② 陸上勤務はありますか。 ③ タンカーは危険と聞きますが。 ④ タンカーのメリットは。 ⑤ 何級がいますか。 ⑥ 昇級は何年位で。</p> <p>○ 今日、タンカー業界の説明を見て、聞いて タンカーに興味を持った人?<br/>約8名が挙手した。</p> <p><u>先生との懇談</u> * ①:は学校、生徒。 ○:訪問者。 [ ]:コメント。</p> <p>① 中途退職者があるようですが。<br/>何年位で、以前は事前に相談のケースがあったが、最近ほとんどない、就職後の動静の把握はしたいが難しい。<br/>[ 2~3年で相談なくいきなり辞める。]</p> <p>② 女性を採用しておられますか、乗船上の問題は。<br/>[ 当社は採用しており、乗船上の問題は起きていない、ただ機関部は体力的に。]</p> <p>③ 他の学校へも行かれていますか。<br/>[ 他の商船高専、海技教育機構、水産高校等の訪問。]</p> <p>○ STCW条約の関係で訓練施設が必要になっているが、貴校では一般開放等をどのようにお考えですか。<br/>[ 施設の有効利用で十分考えられるが、本校の利用、管理体制、予算等検討が必要。]</p> <p><u>報告者(力石)感想</u></p> <p>4年生の就職先は全く未定のように、各社は積極的に直接学校(学生)に自社をアピールして頂きたい。</p> |                                                                                                                                                                                                                                                                               |

## 広島商船高等専門学校訪問者名簿

令和元年 6月11日 (火)

| 氏 名   | 会 社 名           | 役 職 名        |
|-------|-----------------|--------------|
| 松澤 立  | 上野トランステック(株)    | 海務部長         |
| 木下 一也 | 鶴見サンマリン(株)      | 船舶グループ部長     |
| 山田 洋平 | 鶴見サンマリン(株)      | 工務監督         |
| 宗和 孝明 | 旭タンカー(株)        | 船舶部船員チームリーダー |
| 山田 智昭 | 明和海運(株)         | 社長室長         |
| 新井 裕也 | 英雄海運(株)         | 海務課長         |
| 本多 昭博 | 国華産業(株)         | スーパーバイザー     |
| 竹駒 勇治 | 昭和日タンマリタイム(株)   | 船員グループマネージャー |
| 宮津 昌伸 | イイノガストラנסポート(株) | 船員グループリーダー   |
| 小村 吉秀 | 聖朋海運(株)         | 専務取締役        |
| 田中 太  | 聖朋海運(株)         | 海工務部グループリーダー |
| 松下 翔  | 聖朋海運(株)         | 海工務部         |
|       | ( 訪問船社 9社 )     | ( 訪問者数 12名 ) |
| 山口 孝次 | 全国内航タンカー海運組合    | 海工務部長        |
| 力石 正志 | 全国内航タンカー海運組合    | 中国支部 事務局長    |
|       | ( 事 務 局 )       | ( 訪問者数 2名 )  |
|       |                 | 訪問者数合計 14名   |

## 学校訪問報告書

|           |                                                                                                                                   |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 訪問学校名     | 大島商船高等専門学校                                                                                                                        |
| 訪問年月日     | 令和元年 11 月 5 日 13 : 30 ~ 16 : 00                                                                                                   |
| 訪問者<br>7名 | 中村常務取締役 (昭和日タンマリタイム(株))、山田総務部長 (明和タンカー(株))、桐山執行役員 (上野トランステック(株))、栗林船員部長 (株デュカム)、宗和チームリーダー (旭タンカー(株))、三井副部長 (中央海運(株))、目次管理部長 (事務局) |
| 学校側面談者    | 久保田教授、古本教授                                                                                                                        |
| 実施事項      | (1)先生懇談 (2)生徒全体説明・懇談 (商船学科 3 年生)                                                                                                  |

### 懇談・意見交換概要

#### (先生との懇談)

学校の現況、内航タンカーの現況について各々報告の後、懇談を実施



#### (学校の現状)

- ・ 昨年卒業生 39 名中、4 名が進学、35 名就職者の内、6 割は内航、2 割は陸上職
- ・ 4 年生は 2 月の下船後、会社訪問等を実施、早い生徒で 4 ~ 5 月頃に就職先目途
- ・ 在校生の 7 割は寮生活、山口、九州の生徒が多数
- ・ タンカーへの希望者は数名
- ・ 商船学科 40 名中、女子は 2 割程度

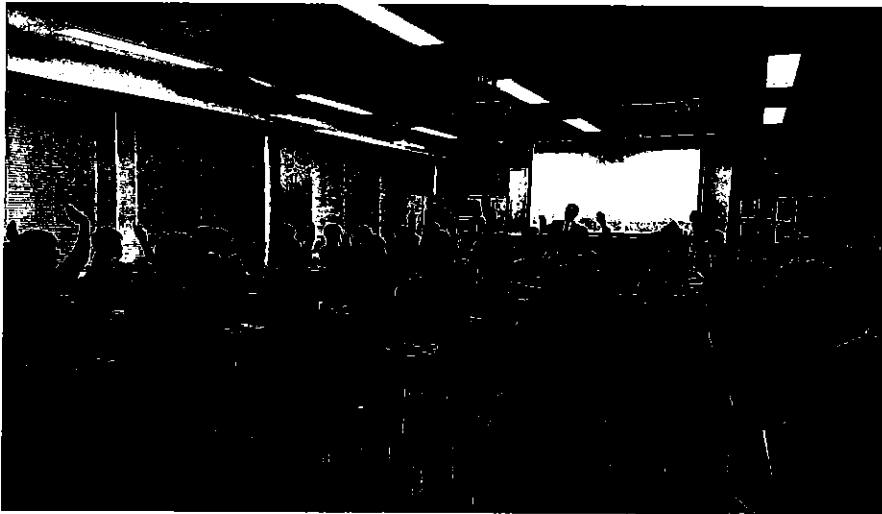
#### (意見交換)

- ・ インターンシップは学校の単位となる制度で、就職にも直結するので船社に活用願いたい  
(申込みは 5 月頃、学生課あて、4 年生が対象)
- ・ 外・内航の割合は、40 名中 10 名程度が外航を志望するが、希望通りは難しい
- ・ 3 月には求人票を出してもらい、学生の目に早く触れるようにした方が良い
- ・ 募集の期限を明記するのは一長一短で、「定員になり次第締切」等の表現も可
- ・ 今年から、3 月の企業ガイダンスは外部の専門機関に依頼し、午前、午後各 40 社程度を入れ替えて行う方式とする予定
- ・ それ以後の企業説明会は、過去実績ある会社で予定が詰まり、難しい面がある

(1/2)

(生徒との懇談)

- ・内航タンカー紹介DVD視聴、訪問各社自社紹介の後、生徒と懇談



(生徒からの質問)

- ・各社の離職率は？
- ・陸上職に移ることはあるか？
- ・5,000積み船型で何名の乗り組みとなるか？
- ・機関部と甲板部で昇進のスピードに差はあるか？
- ・大型タンカーの荷役時間は？また、荷役中の勤務体系は？
- ・頭髪を染めることは可能か？
- ・出席会社全社に乗船期間と休暇のサイクルを答えて欲しい？
- ・出席会社全社に有給休暇の消化率を答えて欲しい？
- ・石油という化石燃料に将来性はあるか？
- ・1日の睡眠時間と就寝のサイクルは？
- ・タンカーが一般貨物船より良い点は？
- ・就職後に免状のスキルアップは可能か？また、会社はスキルアップを求めるか？
- ・海技士以外に資格は必要か？
- ・貨物船とタンカーで仕事の大きな違いは？
- ・乗船中に休みの日はあるか？また、どのような過ごし方が出来るか？
- ・震災の時は、船員として特別な作業があったのか？
- ・タンカー乗りのスキルとして何を求めるか？

(生徒への質問)

- ・自身が船員として乗船するに際して、何を一番重要と考えるか？

挙手の結果 ①休暇…5割 ②人間関係…3割 ③給料…2割

学校訪問報告書

|       |                                |
|-------|--------------------------------|
| 訪問学校名 | 弓削商船高等専門学校                     |
| 訪問日   | 令和元年12月3日(火)                   |
| 訪問者   | 山本汽船(株)山本社長ほか13名               |
| 学校面談者 | 石田 邦光校長先生ほか7名の先生               |
| 実施事項  | 先生方との意見交換会、商船学科3年の生徒37名への説明・質疑 |

説明会等

第一部は弓削商船高専の第一会議室において、弓削商船の先生方8名と意見交換会を実施した。山本内タン四国支部長及び石田校長の挨拶のあと、各出席者が自社紹介を行い、そのあと四国支部事務局(松原)からは内航タンカーの現状の説明を行い、学校からは多田副校長ほか数名により、令和元年度商船学科卒業生の就職先状況等の説明があり、その後情報交換を行った。

(意見交換の内容)

- ・ 求人票の提出時期はいつ頃までに  
→ 高専生の卒業は5.5年なので5年の4月で間に合う。早い船社もあるが。
- ・ 来年卒業予定者でタンカー希望が増えた理由は  
→ 毎年、船種の人気は変わる。同級生を引っ張る学生の情報の出し方によるかも。  
→ 一般的にも、商船学科3年生は就職に対する知識が乏しいと考えてもらっていい。  
今後の、求人側の対応のヒントなればと思ひ話題とした。
- ・ 新卒者が採用後に離職したときに、学校側として某かの対応をされているのか。  
→ 特に何も行っていない。  
次の就職先のアドバイスをを行っているか。  
→ 組織的な対応は出来ていない。個人的には特定の先生が対応しているのが現状。
- ・ 寮の相部屋の入居ルールは  
→ 上下関係のトラブルがあるので、同級生としている。
- ・ (先生から) 学生が求人側に求めている情報を理解されていますか。  
給与、休暇、採用条件、知名度など色々あるが、今の若者は休暇が確実に消化できるかどうかは重要ポイントであるようだ。
- ・ (先生から) 求人先のアットホーム度、会社の雰囲気を感じてこいとアドバイスした。  
地元志向の学生も多いはず。会社のウリはどんなところ、大いにPRしてほしい。

そのあと、第二部は場所をアッセンブリーホールに移動し、商船学科3年生37名に対して、本部山口海工務部長が説明者となり説明会を開始した。始めにDVD「内航タンカーはいま、若い力を求めています」を上映、次に参加事業者から自社紹介を行い、その後に、生徒のいくつかの質問に対して事業者が回答して終了しました。

(情報交換の内容)

- ・ 内タン業界で女性の活躍の場はありますか

- 以前は途中退社が多く採用を控えて時期もあるが専卒の女性を採用する企業も増えつつある。これからは管理部門で活躍できるのではないか。
- ・船舶関係で労働災害の件数はどの程度ありますか
  - 山口部長から説明。数字的にもタンカーが危ないということにはならない。
- ・タンカーに乗るにあたり、前もって資格を取得するとか、また、学校で勉強したらいいことは何かありますか。
  - 日々の勉強を頑張ってもらいたい
  - 人との協調性、コミュニケーション力を磨くようにしてほしい
  - タンカーは入社後に研修、訓練を受けてもらう。
  - まずは3級口述に受かること。基礎学習を大切にほしい。
  - 船舶通信上、必要となるので英語力を身につけてほしい
- ・タンカー事業者で陸上の業務としてどんなことがあるか
  - 海務、工務、安全など
  - 会社によって船員、陸上業務等、幅は広い
- ・採用後に学歴による会社内での待遇の違いはありますか
  - 学歴での差はなし、
  - 免状、実力、やる気、根性かな
  - 高専卒のプライド、自負を持って対応してほしい
- ・複数隻所有している事業者での船舶の転船の期間は
  - 船舶では決めず、ローテーション
  - 新人は1年間は同じ、2年目はその船員の特性を見つつ決める
  - 人間関係、航路、リクエストも考慮される
- ・東日本大震災時に、緊急輸送に協力されたそうですが、通常は対策本部は設置されていますか
  - 常時設置されていないので、政府等から要請があれば、物流確保のために、本部を立ち上げることになる。
- ・(山口部長から)就職は自分を大切に、決めていくように
  - 船は世代の異なる人が共同生活をする。コミ力が必要である。
  - 船社側は、新人に高いスキルを要求していないので、人として先輩から教えを請う、その態度が大切である。
  - 採用されたところで腰を据えて頑張ってもらいたい。転職がチャンス逃すことにもなる。
- ・(山口部長から質問) 将来内タンに就職したい人、挙手。
  - 7名/37名、頼もしい

以上

|  |               |  |
|--|---------------|--|
|  | 訪問経費<br>領収書添付 |  |
|--|---------------|--|



学校（石田校長先生ほか7名）と内タン事業者との情報交換





商船学科3年生37名への説明、質疑応答

## 別紙

## 学校訪問参加者名簿（11社及び2タンカー組合事務局、14名）

|   | 会社名           | 役職           | 氏名     | 住所  | 備考    |
|---|---------------|--------------|--------|-----|-------|
| ① | 山本汽船(株)       | 社長           | 山本 宗宏  | 松山市 | 四国支部長 |
| ② | 旭タンカー(株)      | 船舶部船員チームリーダー | 宗和 孝明  | 東京都 |       |
| ③ | (株)デュカム       | 船員部長         | 栗林 政尚  | 〃   |       |
| ④ | 昭和日タマリタイム(株)  | 常務取締役        | 中村 正信  | 函館市 |       |
| ⑤ | 国華産業(株)       | スーパーバイザー     | 本多 昭博  | 東京都 |       |
| ⑥ | 上野トランスティック(株) | 執行役員         | 桐山 和広  | 〃   |       |
| ⑦ | 有津海運(株)       | 取締役 総務担当     | 馬越 由利江 | 今治市 |       |
| ⑧ | 明神海運(株)       | 社長           | 庭瀬 秀男  | 松山市 |       |
| ⑨ | 三ツ浜汽船(株)      | 海務部          | 坂木 有恒  | 〃   |       |
| ⑩ | 〃             | 〃            | 藤岡 良孝  | 〃   |       |
| ⑪ | 中央海運(株)       | 船舶部部長代理      | 三井 誠   | 東京都 |       |
| ⑫ | 英雄海運(株)       | 船舶部課長        | 新井 裕也  | 〃   |       |
| ⑬ | 全国内航タンカー海運組合  | 海工務部長        | 山口 孝次  |     | 本部事務局 |
| ⑭ | 全国内航タンカー海運組合  | 事務局長         | 松原 智典  |     | 四国支部  |